



(仮称) 伊勢市地域公共交通計画

私たちが「創り」「活かし」「楽しみ」「育てる」 持続可能な地域公共交通網の構築

令和〇年〇月 伊勢市



目次

1	はじめに.....	1
1-1	計画策定の背景.....	1
1-2	計画期間と計画区域.....	2
1-3	計画の位置づけ.....	3
2	伊勢市の現状.....	4
2-1	地域特性.....	4
2-2	公共交通特性.....	5
2-3	観光特性.....	7
2-4	公共交通利用実態.....	8
2-5	コミュニティバスの収支状況.....	9
3	伊勢市地域公共交通網形成計画(R2 年 3 月改訂)の目標達成状況.....	11
4	公共交通の目指す姿.....	18
4-1	公共交通の課題.....	18
4-2	公共交通の目指す姿.....	18
5	計画目標と実施事業.....	26
5-1	基本方針 1 創る.....	26
5-2	基本方針 2 活かす.....	33
5-3	基本方針 3 楽しむ.....	37
5-4	基本方針 4 育てる.....	42
6	目標達成状況の評価.....	45
7	計画推進に向けた取組.....	47
7-1	機動的・横断的な実行体制.....	47
7-2	モビリティ・データの活用.....	48

本計画書に掲載しているデータの詳細につきましては、別冊の「資料編」として取りまとめておりますので、ご参照ください。

1 はじめに

1-1 計画策定の背景

伊勢市では、H19年4月からコミュニティバス「おかげバス」の運行を開始し、H26年5月からは、沼木地区での自家用有償旅客運送による「沼木バス」の運行を開始するなど、住民の交通手段の確保に努めてきました。

また、少子高齢化が進むなかで高齢者や子どもを含めた自家用自動車等の移動手段を持たない人の移動手段を確保し、地域における公共交通に対する主体的な取り組み及び創意工夫を総合的、一体的かつ効率的に推進するため、H28年3月に「伊勢市地域公共交通網形成計画」（以下「前計画」という。）を策定し、R2年3月には状況の変化に合わせて内容の改訂を実施しました。前計画では「日常生活で利用できる公共交通を目指す」「公共交通を利用した観光交流人口の増加を目指す」「地域の関係者が協働・連携しながら自ら公共交通を支える」という3つの基本方針のもと、様々な取組を行ってきました。

しかし、R2年以降の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う移動需要の減少は、本市にも大きな影響を与え、公共交通利用者数は、R2年以前の水準に戻っていません。加えて2024年問題※に伴う乗務員不足の問題は本市においても発生しており、燃料費高騰によって運行経費が嵩むなど、地域公共交通は厳しい状況にあります。

一方、国においては、R2年に地域公共交通の活性化及び再生に関する法律が改正され、地域公共交通網形成計画を「地域公共交通計画」と改め、地方公共団体の作成を努力義務としました。また、収支や行政負担額などの定量的な目標の設定と毎年度の評価が必要となりました。

このような背景のもと、本市においても新たな法改正に即した計画を策定する必要があるとともに、新型コロナウイルス感染症による影響や少子高齢社会の進行、乗務員不足や燃料費高騰の中にあっても将来のまちづくりを見据え、あらゆる関係者と連携しながら交通に係わる環境負荷の低減や、日常の楽しいおでかけと円滑な移動、観光振興等を実現する持続可能な公共交通ネットワークを維持するため、本計画を策定します。

本計画のもと、地域住民、交通事業者、行政が一体となり、より一層の取り組みを推進し、まちづくりや地域住民の生活を支える身近で使いやすい地域公共交通を将来にわたって確保、維持していきます。

※2024年問題

R6(2024)年4月から働き方改革関連法の施行により時間外労働の上限規制等が適用され、トラックドライバーやバス乗務員の不足が発生していること。

1-2 計画期間と計画区域

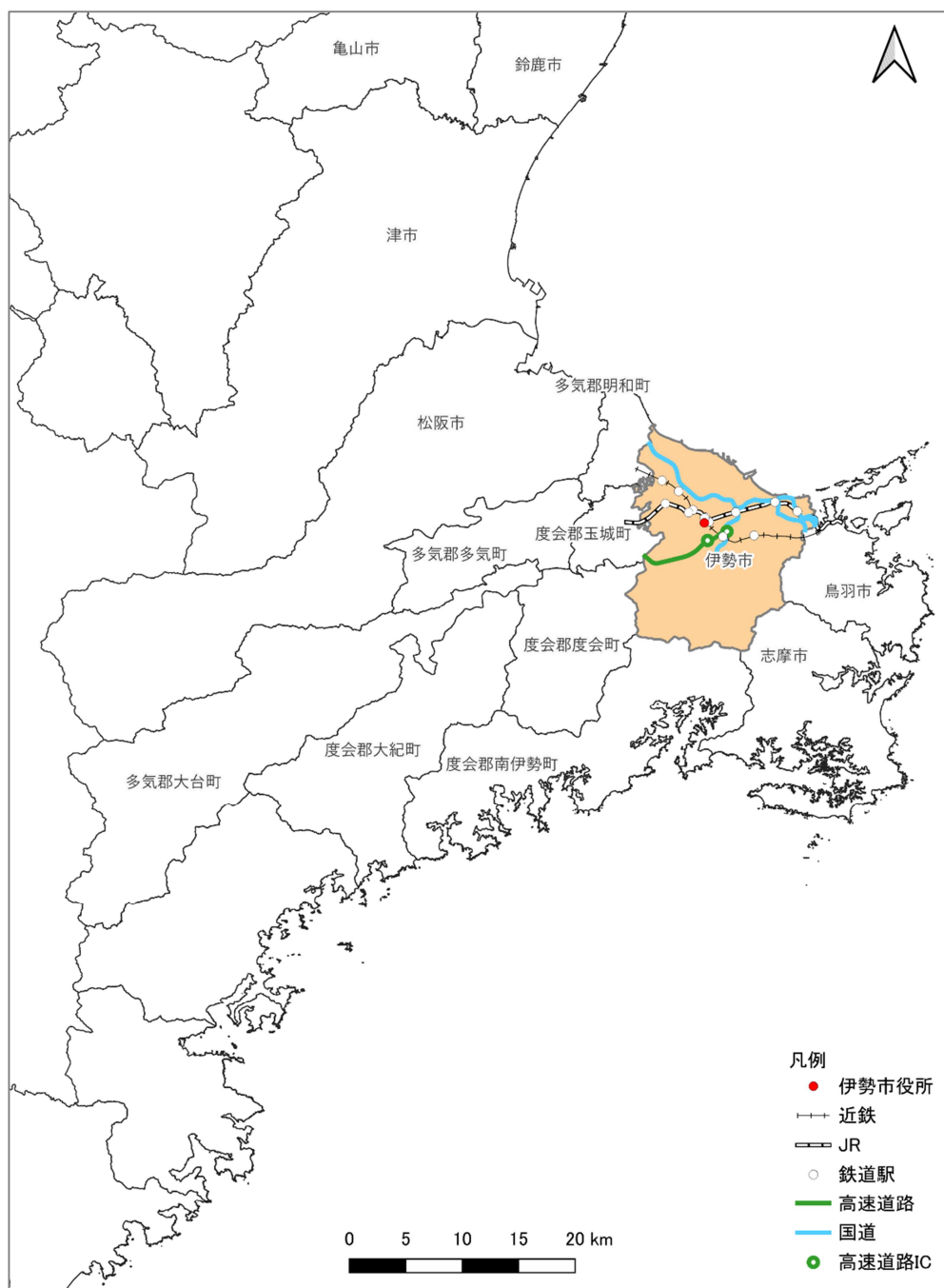
本計画は R8 年度からの 5 年間を計画期間とし、本市全域を対象とします。ただし、隣接する市町に乗り入れているバス路線等については、乗入れ先も考慮した検討を行います。

計画期間

R8 年度～R12 年度(5 年間)

計画区域

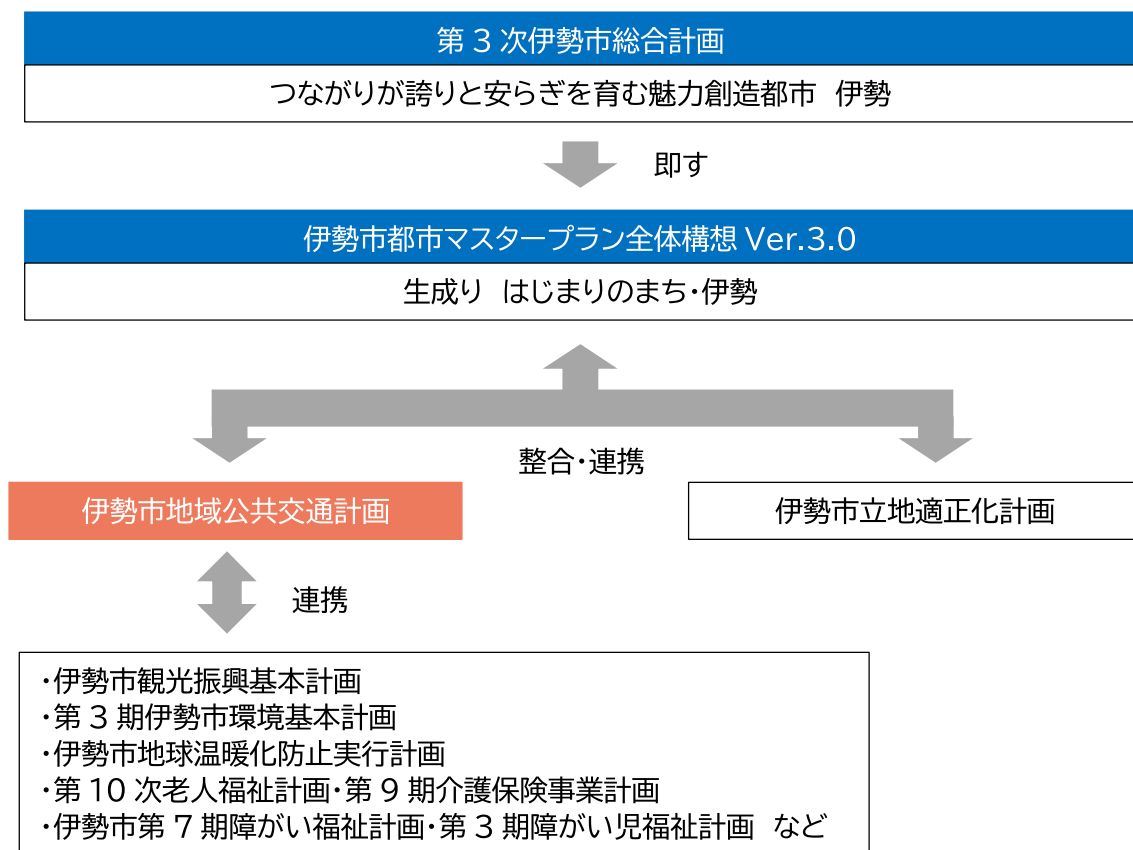
伊勢市内



1-3 計画の位置づけ

本計画は、交通政策基本法の理念を受けて、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正に基づき、まちづくりの方針である第3次伊勢市総合計画、伊勢市都市マスタープラン、伊勢市立地適正化計画などの上位関連計画を踏まえて策定します。

本計画の位置づけ



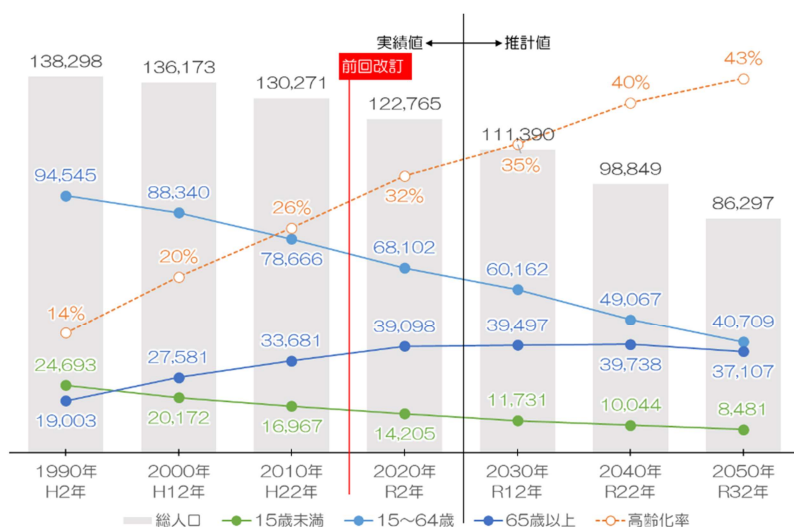
2 伊勢市の現状

2-1 地域特性

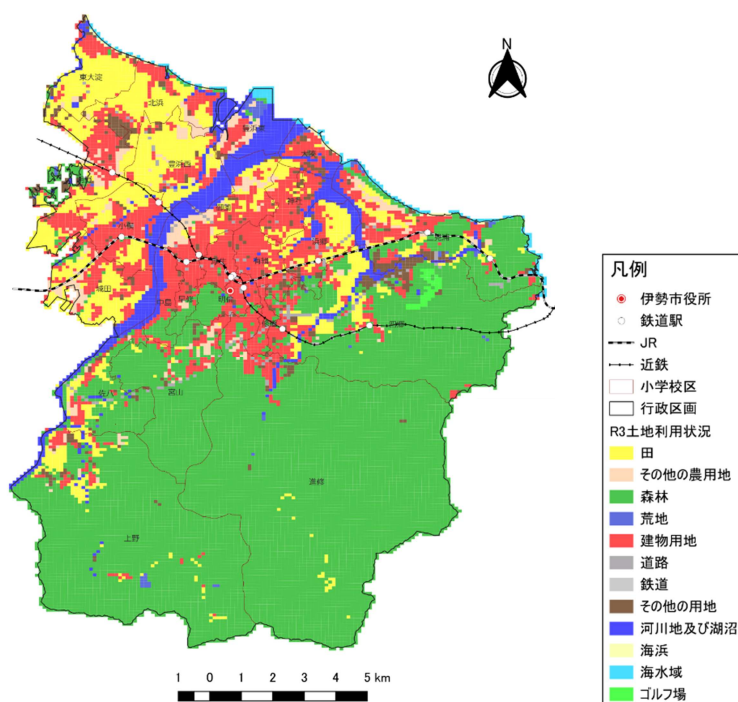
本市の総人口は年々少子高齢化傾向にあり、伊勢市人口ビジョンによると、H2年からR32年の60年間で総人口は約40%減少すると予測されています。R12年以降は65歳以上の人口が減少しますが、総人口の減少率の方が高いため、高齢化率は増加し続け、R32年には43%に達すると予測されています。

また、本市の地域特性として、市域面積の約60%を森林が占め、市街地は市の北部に広がっています。宮川より西側を中心に田が広がり、宮川と五十鈴川に囲まれた範囲に建物用地が広がっています。

人口・高齢化率の推移と土地利用状況



資料：国勢調査(H2～R2)、伊勢市人口ビジョン(R12～R32)



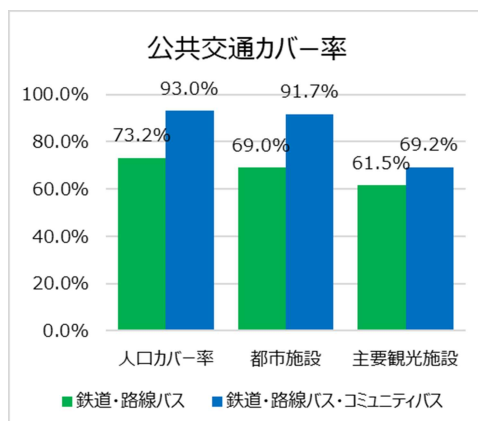
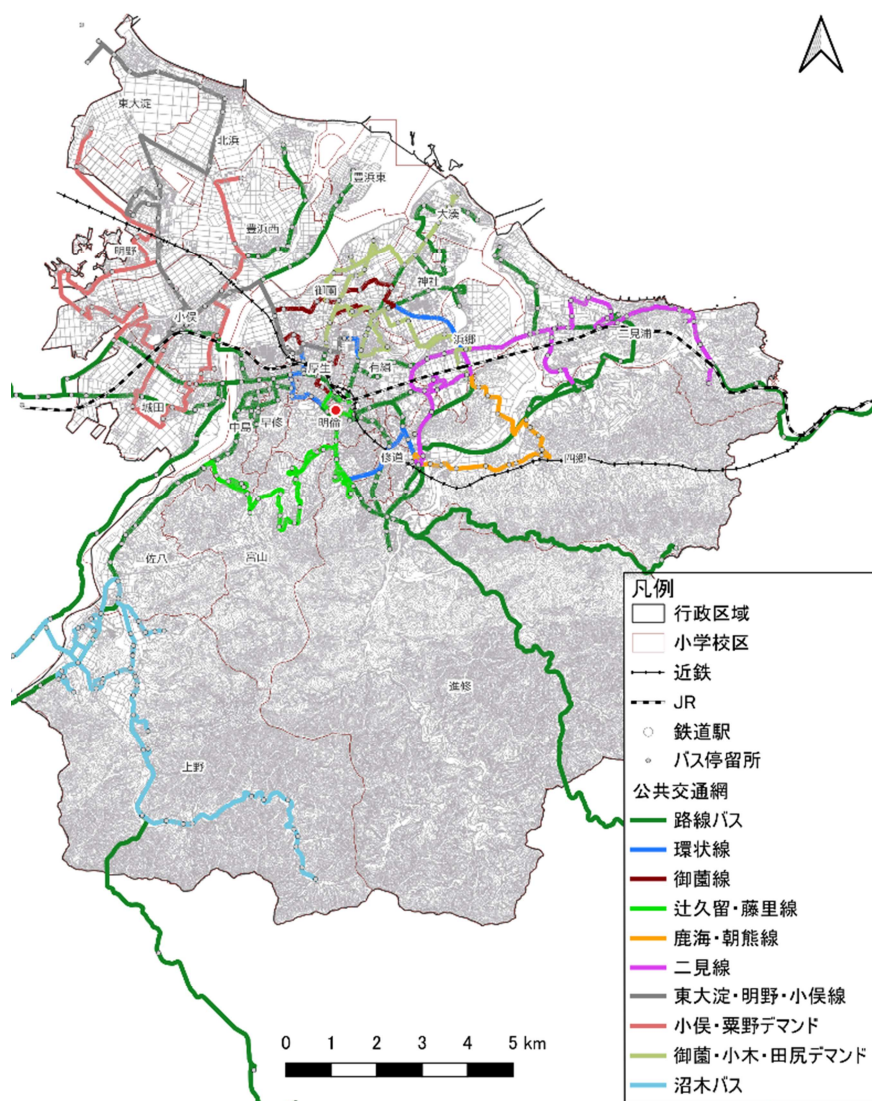
資料：国土数値情報(R3)

2-2 公共交通特性

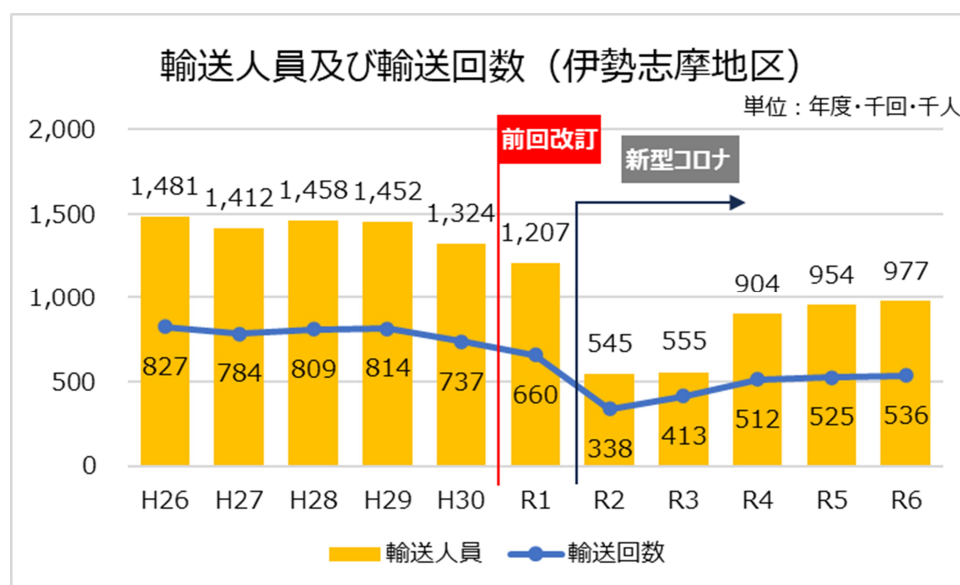
本市では JR、近鉄、路線バスと、市のコミュニティバスであるおかげバス、おかげバスデマンド、沼木バスデマンド、自家用有償旅客運送である沼木バスが運行されています。

公共交通のカバー圏域(鉄道駅・バス停から 300m 圏内)は、鉄道や路線バスでカバーできていない圏域を中心にコミュニティバス路線網が構築され、それによって多くの地域をカバーしています。

公共交通網図



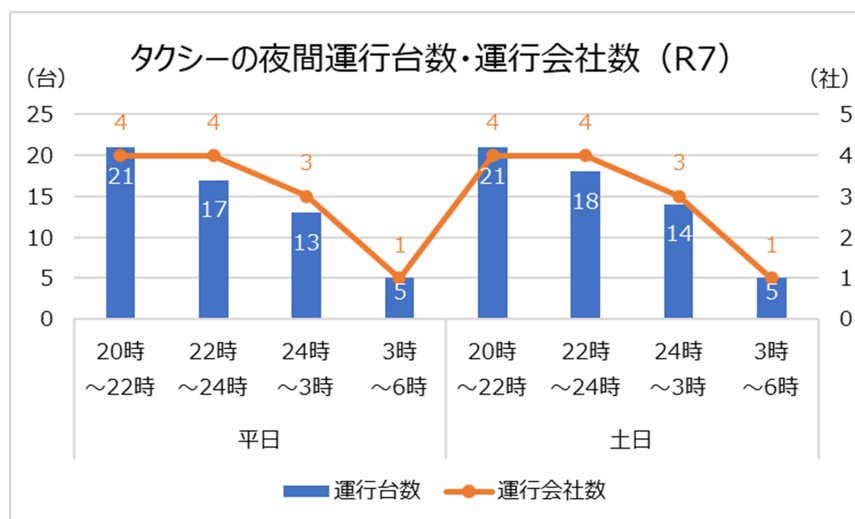
本市におけるタクシー事業者は6社で計145台が運行しています。近年2社が廃業し運行台数が46台減少しました。本市を含む伊勢志摩地区の輸送人員と輸送回数は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大きく減少しましたが、近年は増加傾向にあります。登録運転者の平均年齢は62.6歳で、ドライバーの高齢化が進んでいます。



資料：三重県タクシー協会提供データ

※「前回改訂」とは「(改訂)伊勢市地域公共交通網形成計画」に示されている時点のことです(以下同じ)

R5年度にタクシーの週末(木曜日～土曜日)夜間(20時～24時)の利用者調査を行ったところ、タクシーを手配(乗車)できた人の割合は55.6%で、手配から到着までの時間が15分以内であったのは約50%でした。なお、配車依頼に対応できなかった理由の70%以上が「配車可能なタクシーがない」でした(第2期：R5年11月～R6年2月)。

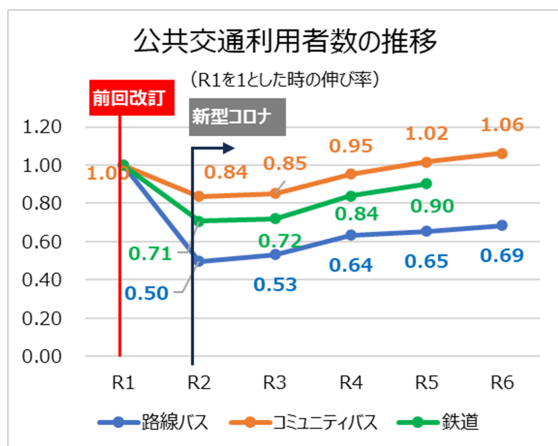


本市では、これらの状況を踏まえてタクシー利用の利便性向上のため、夜間の増車配備の実証事業やライドシェアの実証事業を実施しています。

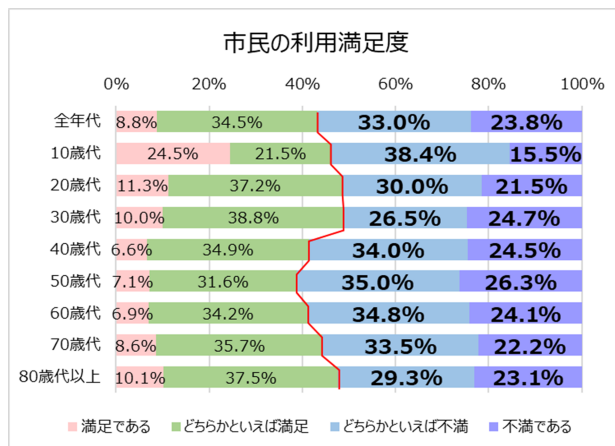
2-4 公共交通利用実態

本市の公共交通網は市域全体をカバーするように広がっていますが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、路線バスと鉄道の利用者数はコロナ前の水準まで戻っていません。

また、市民の公共交通に対する満足度(R2～R6の平均)は「満足」「どちらかといえば満足」と回答した方が約40%、「不満」「どちらかといえば不満」と回答した方が約60%となっています。年代別では30歳代、20歳代、80歳代以上の順に満足度が高くなっています。



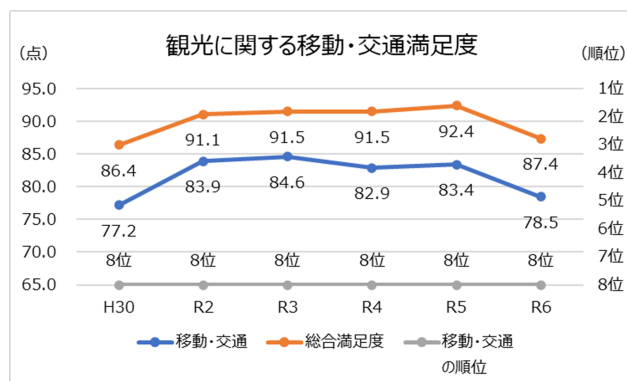
資料：三重交通提供データ、市データ、市勢統計要覧



資料：市民アンケート(R2～R4)

オンライン市民アンケート(R5、R6)

本市を訪れた観光客の満足度をみると、「移動・交通」に対する満足度は全8項目中※最下位となっています。



単位：年・点

	H30	R2	R3	R4	R5	R6
景観・雰囲気	90.3	93.0	93.1	93.2	94.2	90.0
宿泊施設	81.1	87.3	88.4	87.3	86.4	82.6
観光施設	87.2	91.4	91.5	91.6	92.5	85.7
飲食施設	86.3	89.3	90.2	89.9	91.1	85.1
物産施設	83.8	87.9	89.0	88.0	89.5	84.1
移動・交通	77.2	83.9	84.6	82.9	83.4	78.5
情報・案内	81.2	85.0	86.7	85.1	87.2	80.7
おもてなし	84.5	90.3	90.6	90.8	91.5	85.3
総合満足度	86.4	91.1	91.5	91.5	92.4	87.4

※8項目

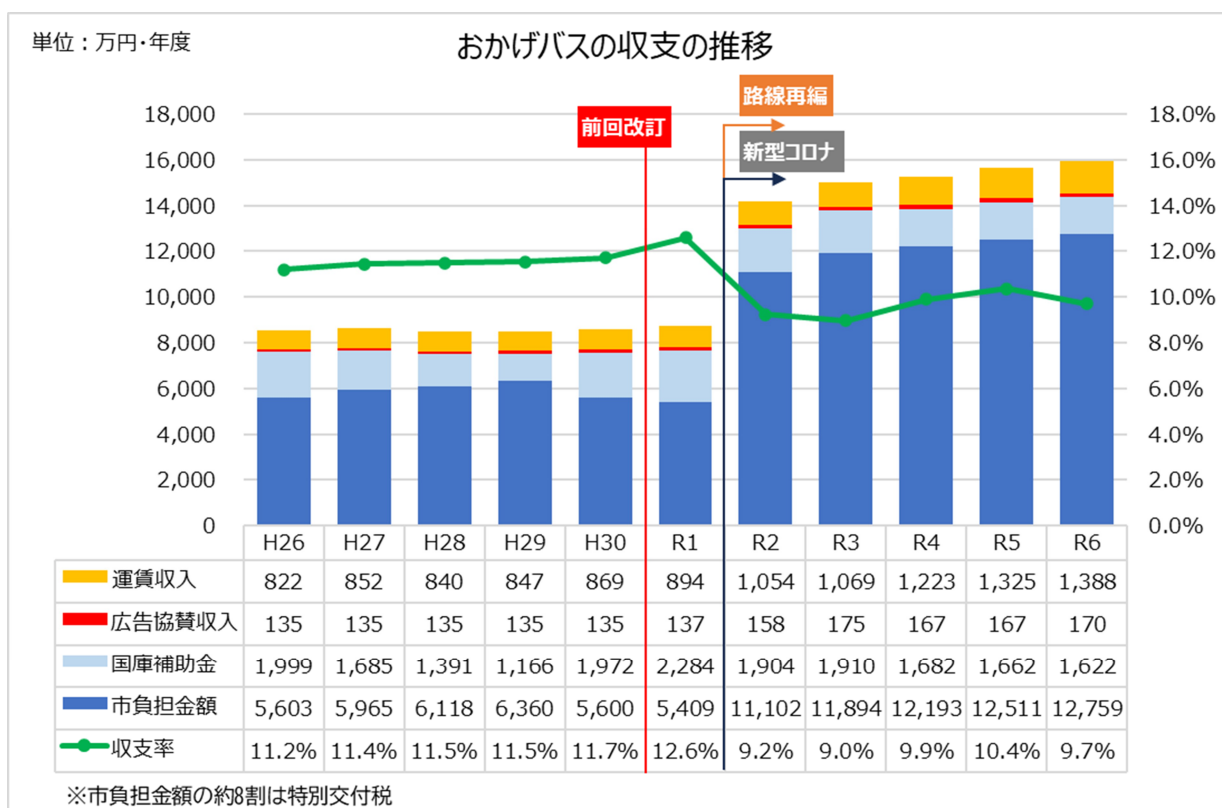
①景観・雰囲気、②宿泊施設、③観光施設、④飲食施設、⑤物産施設、⑥移動・交通、⑦情報・案内、⑧おもてなしの8項目。

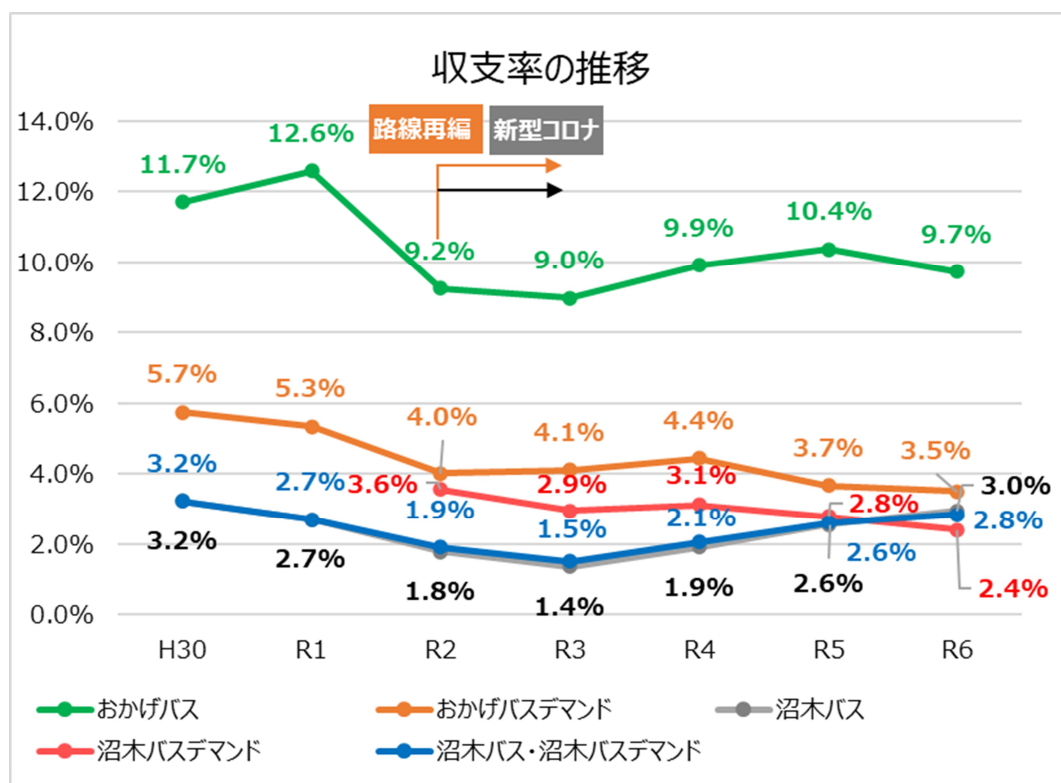
資料：伊勢市観光客実態調査

2-5 コミュニティバスの収支状況

おかげバスの運賃収入と広告協賛収入は、R1年度までは横ばい傾向でしたが、環状線の運行が開始されたR2年度以降は増加しました。

収支率は運行経費がどれだけ収入でまかなわれているかを示す指標です。H26年以降11～12%で推移していましたが、路線再編等による市負担金額の増加により9%まで低下しました。その後、徐々に回復していますが、新型コロナウイルス感染症拡大以前の水準には戻っていません。





※収支率＝(運賃収入＋広告協賛収入)／運行経費

資料：市データ

3 伊勢市地域公共交通網形成計画(R2年3月改訂)の目標達成状況

本市では、R2年3月に改訂した前計画により、地域住民、交通事業者、行政が一体となり、まちづくりや地域住民の生活を支える身近で使いやすい地域公共交通を将来にわたって確保、維持していくことを目指してきました。

前計画では、3つの基本方針と7つの目標、10の具体的な指標(重複除く)を掲げており、10の指標のうち、6指標で目標未達成となっています(R6年度時点)。日常利用に関する「基本方針1」と、観光利用に関する「基本方針2」は、おかげバス・おかげバスデマンドの利用者数をのぞく全ての項目で目標未達成となっています。特に「基本方針2」は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けたことが考えられます。一方で「基本方針3」は全ての項目で目標を達成しています。

	現況値							目標値
	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
基本方針1 日常生活で利用できる公共交通を目指す								
目標① 路線バスの運行維持・改善								
外宮内宮線・CAN(バス・二見サンアリーナ線を除く)路線バスの利用者数	1,584,300人	1,491,500人	989,300人	1,043,900人	1,129,400人	1,128,900人	1,138,200人	158万人
目標② コミュニティバスの運行継続・改善の指標と目標値								
おかげバス・おかげバスデマンドの利用者数	81,654人	120,886人	101,367人	103,744人	115,754人	123,024人	128,563人	89,000人
沼木バスの利用者数(スクール用を除く)	3,722人	3,113人	2,074人	1,581人	1,865人	2,345人	2,677人	3,700人
年間利用者数72名未満のコミュニティバス停留所の割合	31%	34%	29%	25%	28%	20%	23%	21%
目標③ 公共交通の利便性向上								
外宮内宮線・CAN(バス・二見サンアリーナ線を除く)路線バスの利用者数	1,584,300人	1,491,500人	989,300人	1,043,900人	1,129,400人	1,128,900人	1,138,200人	158万人
おかげバス・おかげバスデマンドの利用者数	81,654人	120,886人	101,367人	103,744人	115,754人	123,024人	128,563人	89,000人
沼木バスの利用者数(スクール用を除く)	3,722人	3,113人	2,074人	1,581人	1,865人	2,345人	2,677人	3,700人
市民アンケートの交通環境満足度(満足・どちらかといえば満足)	49%	47%	51%	50%	42%	31%	32%	59%
基本方針2 公共交通を利用した観光交流人口の増加を目指す								
目標① 公共交通を利用した観光振興の推進								
内宮参拝者の公共交通利用率	31%	34%	9%	17%	25%	26%	26%	35%
外宮内宮線・CAN(バス・二見サンアリーナ線)路線バスの利用者数	2,676,600人	2,769,900人	1,130,500人	1,229,400人	1,576,900人	1,653,600人	1,783,300人	300万人
基本方針3 地域の関係者が協働・連携しながら自ら公共交通を支える								
目標① 利用するきっかけの創出								
公共交通の啓発・利用促進事業に参加した人数	857人	838人	187人	351人	1,302人	980人	986人	940人
目標② わかりやすい情報提供の展開								
おかげバス・おかげバスデマンドのページ(伊勢市ホームページ)アクセス数	38,376件	51,930件	24,906件	35,181件	72,368件	79,481件	64,719件	42,000件
目標③ 公共交通を地域で支え、育てる								
伊勢地域公共交通会議の開催数	5回/年	4回/年	4回/年	3回/年	4回/年	4回/年	5回/年	4回/年

※薄字は重複項目

□:目標値を下回る

前回改訂

新型コロナウイルス

路線再編

それぞれの目標に対する施策の実施状況は以下のとおりです。

基本方針 1 日常生活で利用できる公共交通を目指す

目標① 路線バスの運行維持・改善

目標	施策実施状況
(1) 路線バスの運行維持・改善	三重交通(株)、まちづくり協議会などの関係者と路線バスやコミュニティバスの利用状況や要望などを共有し、既存の運行路線を維持
(2) 路線バス網の再編	R2 年度に大湊線・神社線の再編を実施 (※1)
(3) 周辺市町との連携促進	三重県地域公共交通協議会地域別ワーキンググループ(伊勢志摩地域)で関係市町と情報共有を実施(直近 R6.8.22 開催)

目標② コミュニティバスの運行継続・改善

目標	施策実施状況
(1) おかげバス、おかげバスデマンドの運行維持・改善	バスの乗り方教室、バスポスターコンクール開催、伊勢まつりでの出展、GTFS リアルタイムの導入、おかげバス 1 日乗車券デジタルチケットの販売などを実施 R2 年度におかげバス、おかげバスデマンド(7 路線)の再編を実施(※2) R5 年 10 月環状線のダイヤ変更・バス停新設、R6 年 4 月辻久留・藤里線のダイヤ変更など適宜実施
(2) 市内環状バスの運行維持・改善	ホームページでダイヤ変更や時刻表・路線図、おでかけ乗車券の情報などを発信 おかげバス環状線乗り継ぎ割引の実施(金銭的負担の軽減)
(3) 地域主体の自家用有償旅客運送の運行維持・改善	R2 年度に沼木バスの再編を実施し、利用が少ないバス停を結ぶ系統については、沼木バスデマンドとして分離
(4) 地域が自ら検討し運営する地域交通の導入	R2 年 8 月より進修おでかけタクシーの運行開始(修道地区は運行開始に向け検討中) R2 年 6 月より「地域運営乗合タクシー運行事業補助金」を導入
(5) IC カードの導入による利便性向上	R3 年 9 月より全国交通系 IC カード、三重交通 IC カード(エミカ)を導入、利用者は料金 1 割引
(6) 地域や施設との連携による利用促進	「おかげバスええとこめぐり」を実施(伊勢市二十歳のつどい実行委員会・有志団体) 伊勢まつり出展

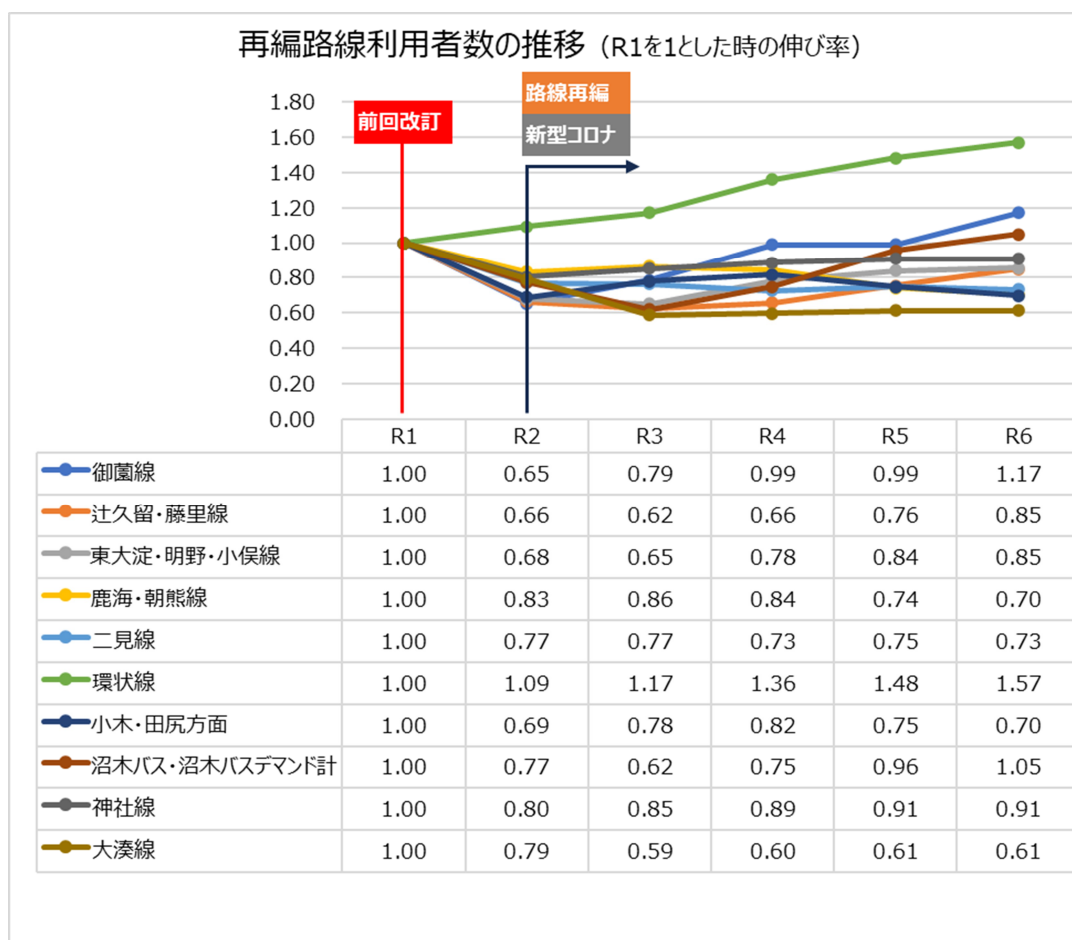
目標③ 公共交通の利便性向上

目標	施策実施状況
(1) 乗継割引制度の継続	おかげバス環状線乗り継ぎ割引(おかげバス環状線⇄路線バス・おかげバス(デマンド含む)・鉄道・地域運営乗合タクシーを乗り継ぐと、おかげバス環状線の運賃が 100 円割引)を実施 (※3) 「観光 MaaS を活用した地域周遊促進モデルの実証事業」を実施(伊勢まちづくり(株))
(2) 「公共交通ネットワーク見える化」事業の推進	R6 年 10 月より GTFS リアルタイムを導入し、Google 検索から実際の運行状況を反映した経路検索が可能となった

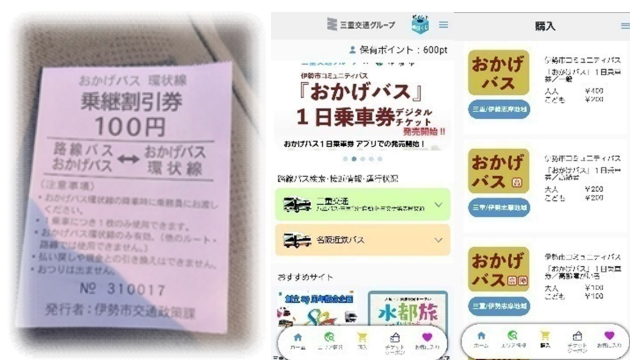
目標	施策実施状況
(3)バスロケーションシステムの導入	R2 年 11 月より三重交通バスロケーションシステム「Bus-Vision」の運用を開始
(4)バス停環境の改善	R2 年に「ミタス伊勢北」の上下線、「伊勢図書館」の上下線、「市役所正面」の法務局側の上屋を整備
	R3 年に「ララパーク」の店側の上屋を整備(費用は三重交通と 1/2 ずつ負担)
	「外宮前」のバスロケ、料金案内を整備 「内宮前」「伊勢市駅前」「宇治山田駅前」「五十鈴川駅前」は上屋、バスロケ、バス乗場案内を整備
(5)わかりやすい公共交通利用環境への改善	GTFS リアルタイムの導入、伊勢市公式 LINE アカウントによるチャットボットの「公共交通案内」を導入 (※4)

■再編路線の利用者数の推移について (※1、※2)

- ・R2 年 3 月の計画策定以降、再編を行った路線のうち、環状線の利用者数は毎年増加傾向にあります。その他の路線は新型コロナウイルス感染症拡大時に大きく落ち込んだのち、「鹿海・朝熊線」をのぞき横ばい～微増傾向となっています。
- ・R3 年から利用者が減少し続けている「鹿海・朝熊線」については、地域との意見交換を行い、利用者が使いやすいダイヤや、バス停の位置の見直しなどを検討する必要があります。



■乗継割引制度の継続（※3）



▲おかげバス環状線乗継割引券

▲おかげバス 1日乗車券デジタルチケット

■わかりやすい公共交通利用環境への改善（※4）

公共交通の案内チャットボット「公共交通案内」をLINEで!!

バスや電車の時刻表などを調べられるチャットボット「公共交通案内」がLINEで利用できるようになりました。

【利用手順】

- 1 伊勢市LINE公式アカウントから、「公共交通案内」を選択
- 2 調べたい項目を選ぶ
- 3 画面の案内に従って進む
(例) 公共交通時刻表⇒バス時刻表⇒おかげバス⇒環状線

▲LINE アカウントからの公共交通案内

基本方針 2 公共交通を利用した観光交流人口の増加を目指す

目標① 公共交通を利用した観光振興の推進

目標	施策実施状況
(1) 観光施設との連携による公共交通の利用促進	さわやかウォーキングのイベントで啓発活動を実施 R4 年 9 月より松阪駅～賢島駅間のサイクルトレインを本格実施
(2) 観光交通軸での連節バス運行による利用促進	R2 年 12 月よりハイブリッド連節バス「神都ライナー」を導入
(3) 多様な交通手段の組み合わせによる公共交通の利用促進	ゴールデンウィーク、初参りなどの大型連休時にパークアンドバスライド(シャトルバス運行)を実施(年 10 日程度)
	主要観光施設と鉄道、路線バスを案内する「7 カ国 8 言語マップ」を作成
	R4 年から駅周辺に民間のシェアサイクルポートを設置
	伊勢市公共交通総合時刻表において市内の鉄道駅の時刻表と主要なバス停のバス時刻表を掲載
	R5 年度「観光地における夜間のタクシー増車配備の実証事業」を実施 R6 年度「伊勢市「日本版ライドシェア」実証事業」を実施 R5 年よりおでかけ乗車券のタクシー利用を開始
(4) 企画きっぷによる利用促進	「観光型 MaaS(ぶらりすと)」による企画きっぷの販売、クーポン発行による周遊促進
	まわりゃんせ、デジタルまわりゃんせ、伊勢鳥羽みちくさきっぷ、デジタル伊勢鳥羽みちくさきっぷ、みちくさきっぷ、デジタルみちくさきっぷを販売 R6 年 1 月から JALMaaS(セントレアから高速船と貸切タクシーで伊勢市内へ)「観光型 MaaS(ぶらりすと)」の運用開始
(5) マイカー観光から公共交通観光への転換促進	らくらく伊勢もうでホームページに公共交通でのアクセス方法を公開
	R6 年 2 月に、「公共交通でゆく 神宮 125 社めぐり帖」のコンテンツを立ち上げ、二見エリアを公開
(6) 電気自動車等の活用による公共交通の利用促進	R5 年 4 月からおかげバスで 2 台の小型電気バス(みえ応援ポケモンの「ミジュマル」をラッピング)を導入

■観光交通軸での連節バス運行による利用促進



基本方針 3 地域の関係者が協働・連携しながら自ら公共交通を支える

目標① 利用するきっかけの創出

目標	施策実施状況
(1)公共交通の利便性、実用性等の情報発信	バスポスターコンクール、バスの乗り方教室、伊勢まつりへの出展等を実施 時刻情報提供サイトでの情報提供、GTFS リアルタイムの導入
(2)クルマと公共交通のかしこい使い方の周知とその支援	バスの乗り方教室、時刻表の無料配布
(3)高齢者等の外出機会の増進	運転免許返納割引定期券“セーフティーパス”、運転免許返納割引(三重交通) 寿バス券を配布(～R4 年度まで) R5 年度からおでかけ乗車券(名称変更)を配布、タクシーへの利用を開始 H27 年 10 月よりノンステップバスを導入
(4)みえエコ通勤デーによる利用促進	毎週水曜日「みえエコ通勤デー」に協力(三重交通) ノーマイカーウィーク(各月第 3 週目)の実施

目標② わかりやすい情報提供の展開

目標	施策実施状況
(1)時刻表の発行	市内の全世帯に毎年無料で配布
(2)広報誌や市ホームページ等多様な媒体による情報提供	ホームページ、広報誌などを活用した周知を継続 GTFS リアルタイムの導入によりスマートフォン、パソコンからバスの運行状況を確認可能に

目標③ 公共交通を地域で支え、育てる

目標	施策実施状況
(1)地域公共交通会議の活用	R1 年度以降、3～4 回/年実施 各会議の要旨、資料をホームページで公表
(2)地域意見交換会の実施	沼木バス委員会への出席 (2 回/年)等
(3) 広告協賛金事業等多様な収入源の確保	コミュニティバスのバス停副名称のネーミングライツ実施 バス停副名称のネーミングライツ協賛企業の伊勢市公共交通総合時刻表への広告掲載の実施

■近年の取組

①自動運転バスの実証実験

- ・R6 年 11 月 30 日～12 月 13 日に、市営浦田 B2 駐車場～宇治橋前ロータリー間で自動運転の実証実験を実施しました。
- ・バスにはお伊勢さん観光案内人が同乗し、片道約 15 分の乗車時間中に伊勢や神宮にまつわる話をして乗客を楽しませました。
- ・自動運転は、乗務員不足が課題となっている中、新たな公共交通としての役割が期待されています。



②日本版ライドシェアの実証実験

- ・R6 年 12 月 5 日～R7 年 3 月 1 日の期間、日本版ライドシェアの実証実験を行いました。
- ・日本版ライドシェアとは、タクシーが不足している地域や時間帯において、タクシーの代わりに一般の人が自家用車等を活用して有償で送迎を行うサービスです。



③公共交通でゆく 神宮 125 社めぐり帖

- ・公共交通の利用促進を図るため、公共交通機関(レンタサイクルやシェアサイクルを含む)と徒歩を組み合わせ、神宮 125 社とその周辺の観光スポットを巡るモデルコースをエリアごとに設定し、ホームページ等で発信する取り組みを R7 年 2 月より開始しました。



イベント 2025.03.19
3/8 (土)「二見エリア」ウォーキングツアーに行ってきました♪

[View more](#)



イベント 2025.03.08
「二見エリア」のウォーキングツアーを開催します

[View more](#)



News 2025.02.28
「公共交通でゆく 125社めぐり帖」のホームページを開設しました

[View more](#)

4 公共交通の目指す姿

4-1 公共交通の課題

本市では前ページまでに整理したように、公共交通を将来にわたって確保、維持していくために利用促進に向けた様々な取り組みを行ってきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響などもあり、設定した目標が未達成のものもある状況です。

また、公共交通網の人口カバー率や施設カバー率が高いにもかかわらず、鉄道や路線バスの利用者数はコロナ禍以前の水準を下回っており、市民の公共交通に対する満足度や観光客の移動・交通に対する満足度が低迷していることから、「公共交通がうまく利用されていない」という実態が見えてきます。

このほか、R15年に第63回式年遷宮を迎えるにあたり、多くの方の来訪が想定されるなか、観光交通の充実が求められることや、少子高齢化、人口減少、バス・タクシーの運転士不足など、公共交通を取り巻く環境の変化による課題もあります。

このような公共交通の現状等を踏まえて、本市の公共交通の課題を以下のとおり整理します。

課題①	地域の実情やニーズに応じた、使いやすく利便性のある路線への再編とその維持が必要である。
課題②	公共交通をうまく利用してもらうために、利用促進のための啓発・情報発信やニーズの把握、わかりやすい乗車案内を進めていく必要がある。
課題③	R15年の第63回式年遷宮に向けて、二次交通を含む観光交通の更なる充実や、外国人も含めた観光客の公共交通の利用を促進する取り組みが必要である。
課題④	地域交通の担い手を確保し、持続性のある公共交通のあり方を交通事業者や地域の人と共に考え、実践する必要がある。

4-2 公共交通の目指す姿

4-2-1 まちづくりの主要課題

「第3次 伊勢市総合計画(基本構想)」では、まちづくりの課題として、①子どもを産み育てやすい環境づくり、②超高齢社会への対応、③地域のつながりの再生、④集約型都市構造の促進と公共交通体系の整備、⑤選ばれるまちづくりがあげられています。

これらの課題に対して、公共交通では以下の役割が求められます。

まちづくりの課題	公共交通での対応
子どもを産み育てやすい環境づくり	子育て世代や学生のニーズに即した公共交通網の整備
	子育て世代が利用しやすい公共交通環境の整備
超高齢社会への対応	高齢者ニーズに即した公共交通網の整備
	高齢者が利用しやすい公共交通環境の整備
地域のつながりの再生	地域で考え、地域のニーズにあった公共交通の確保
集約型都市構造の促進と公共交通体系の整備	公共交通の運行維持
	地区内・地区間における回遊性の向上
	移動ニーズの把握による移動手段への不安解消
選ばれるまちづくり	子育て支援や教育環境の充実につながる公共交通網の確保
	住民に加え、観光客が何度でも「訪れたい」と思えるまちづくり推進のため、観光施設と公共交通網の連携強化

4-2-2 将来像と基本理念

本市の公共交通の現状や、総合計画等を踏まえて、本計画の目指す将来像を次のとおり設定します。

目指す 将来像	行きたい時に、行きたい場所へ、 住む人と訪れる人の自由な移動を叶える地域公共交通
------------	---

また、将来像の実現に向け、以下の基本理念のもと、事業を推進します。

基本 理念	私たちが「創り」「活かし」「楽しみ」「育てる」 持続可能な地域公共交通網の構築
----------	--

4-2-3 基本方針

本計画が目指す将来像や基本理念を実現するために、4 つの基本方針を定め、事業の推進を図ります。

基本方針 1	創る ～持続可能な公共交通を創って、人と環境に優しい伊勢を実現する～
--------	---------------------------------------

- 鉄道やバス、タクシーなど様々な公共交通の連携を図り、地域ニーズにあった円滑で利便性の高い公共交通網を形成します。
- SDGsの実現やドライバー不足解消に向け、次世代交通の導入に向けた取組を継続します。

基本方針 2	活かす ～公共交通を利用して気がねなくおでかけできる、楽しい伊勢を実現する～
--------	---

- 地域イベントとも連携した広報やわかりやすい乗車案内、料金負担軽減策等を通じて、これまで公共交通を利用する機会のなかった方にも利用してもらえるよう、公共交通が使いやすい環境を形成します。

基本方針 3	楽しむ ～公共交通利用によって観光も生活も充実する伊勢を実現する～
--------	--------------------------------------

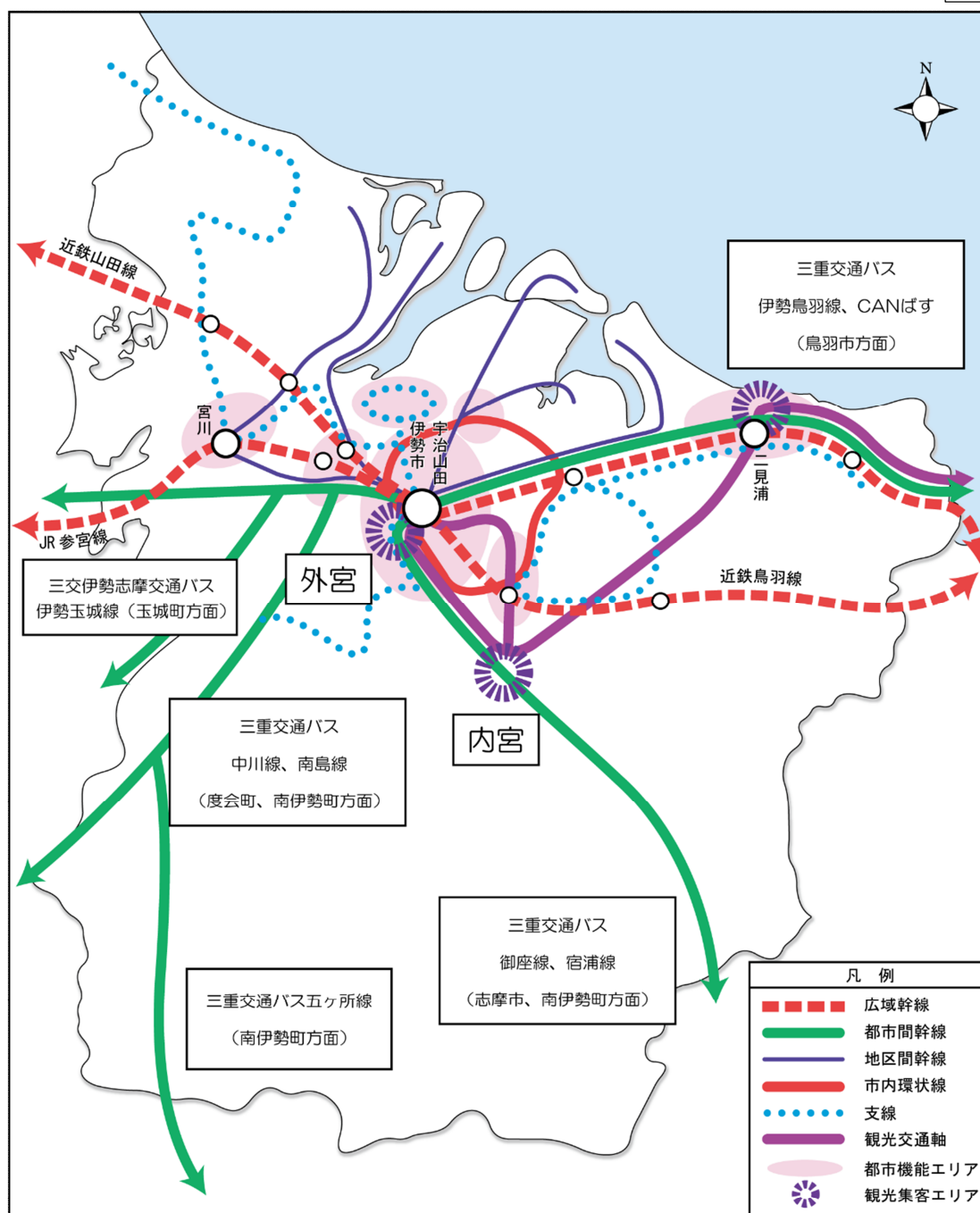
- 第 63 回式年遷宮に向けた交通環境の整備、MaaS への取組などを通じて、マイカーによる「ショートカット観光」から公共交通による「地域を味わう観光」への転換を進めます。
- 飲食店や商業施設への移動など、住民が快適に外出できる公共交通網を形成し、回遊性の高い地域づくりを目指します。

基本方針 4	育てる ～みんなで考え、地域で公共交通を支える伊勢を実現する～
--------	------------------------------------

- 持続可能な公共交通を実現するため、市、交通事業者、住民の方々が一体となって公共交通を考える環境づくりを進めます。

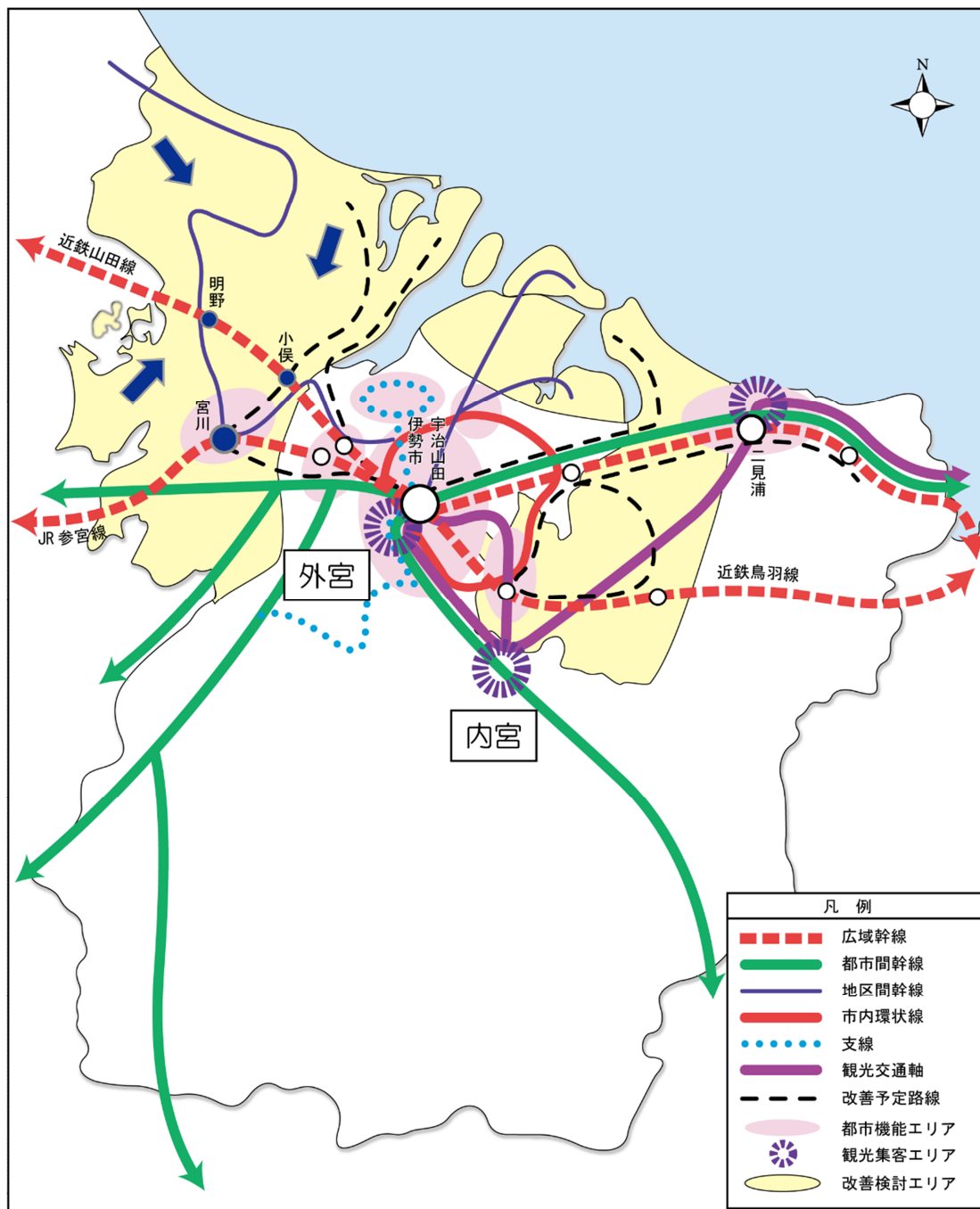
4-2-3 伊勢市地域公共交通体系のイメージ

現況



広域幹線	本市と市外・県外など広域的な移動を支える鉄道
都市間幹線	本市と周辺市町など比較的広域的な移動を支えるバス路線
地区間幹線	都市間幹線を補完し、市内各地区間の移動を支えるバス路線 ※土路今一色線は「地域旅客運送サービス継続事業」に位置づけ、運行を継続
市内環状線	各幹線と支線等を結び、主に本市の中心部を環状に運行するバス路線
支線	地区間幹線を補完し、周辺地区間や地区外の最寄り駅など比較的小さな範囲の日常の生活圏の移動を担うバス路線
観光交通軸	伊勢市駅・宇治山田駅と観光集客エリアを結ぶバス路線
都市機能エリア	伊勢市立地適正化計画において都市機能区域として位置づけられている区域
観光集客エリア	観光入込客数が多く、伊勢市都市マスタープランにおいて豊かな自然と歴史文化を伝える拠点として位置づけられている区域

5 年後



改善検討エリア

バス利用者が減少し、運行の改善を検討する必要がある区域

利用者が減少しているおかげバス(鹿海・朝熊線、二見線)やおかげバスデマンドについては、地域との対話を通じてニーズを把握し、ニーズにあった運行路線、運行時間、バス停位置などを検討し、運行の改善を図ります。

また、利用者の減少や運転手不足により都市間幹線や地区間幹線等の路線バスの廃止が検討される地域については、多様な選択肢を提供しながら新たな移動手段について検討します。

下表の路線については、地域公共交通確保維持事業により、国や県の補助を活用して引き続き運行を維持していきます。

地域間幹線系統路線(事業主体:三重交通(株)・三交伊勢志摩交通(株))

位置づけ	路線名	運行態様	運行区間		
			起点	主な経由地	終点
都市間幹線	(31)南島線	路線定期運行	伊勢市駅前	大倉うぐいす台、中村	南島道方
	(25、26)中川線		伊勢市駅前	度会橋	度会町役場前
	(24)伊勢玉城線		伊勢市駅前	度会橋、上地／掛橋、田丸駅前	田丸城跡(玉城町役場前)
	(60、62)御座線		伊勢市駅前	磯部バスセンター、鵜方駅前	御座港
	(70)宿浦線		伊勢市駅前	磯部バスセンター、鵜方駅前	宿浦
	(80)五ヶ所線		宇治山田駅前	上野	五ヶ所バスセンター

※伊勢玉城線のみ三交伊勢志摩交通(株)が運行

下表の路線については、地域公共交通確保維持事業(フィーダー系統)により、国の補助を活用して引き続き運行を維持していきます。

地域内フィーダー系統路線(事業主体:伊勢市)

位置 づけ	路線名		運行 態様	運行区間		
				起点	主な経由地	終点
市内 環状線	おかげバス	環状線	路線定期運行	伊勢市駅前	伊勢赤十字病院、伊勢病院前	伊勢市駅前
支線		(2)辻久留・藤里線		大倉うぐいす台	伊勢やすらぎ公園、ベリー藤里店、勢田町	伊勢市役所正面
		(7)鹿海・朝熊線※		いせトピア	朝熊町	いせトピア
		(8)二見線※		松下広場	プライスカット伊勢二見店、浜郷小学校前	五十鈴川駅前
地区間 幹線		(10)東大淀・明野・小俣線		伊勢赤十字病院	近鉄明野駅前、三重ハートセンター	山大淀
支線	沼木バス	市内連絡用(1)		床ノ木	横輪口、沼木神社北	神園
		市内連絡・買物用(1)		床ノ木	横輪口、津村	度会町役場前

※は改善予定路線として、地域内フィーダー系統路線としての運行を維持しつつ、改善を進めていく予定の路線

下表の路線については、利用の減少が大きいことから、計画期間の 5 年で特に改善を検討することとし、適切な方法で公共交通を維持していく予定の路線です。

改善予定路線(事業主体:伊勢市、三重交通等の運行事業者)

現況の位置づけ	路線名		運行態様	運行区間		
				起点	主な経由地	終点
地区間幹線	路線バス	有滝線	路線定期運行	イオン伊勢店	いせトピア・伊勢学園前、伊勢市駅前、小俣	有滝
		土路今一色線※		土路	宮町駅口、伊勢市駅前、宇治山田駅前、通り口	今一色
支線	おかげバス	(7)鹿海・朝熊線		いせトピア	朝熊町	いせトピア
		(8)二見線		松下広場	プライスカット伊勢二見店、浜郷小学校前	五十鈴川駅前

※土路今一色線は、「地域旅客運送サービス継続事業」に位置付け、運行を継続する。

以下の路線は、地域住民にとって必要不可欠な路線であり、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。

各路線の補助事業の必要性

路線名	当該システムの必要性
(31)南島線	<ul style="list-style-type: none"> ・県道伊勢南島線沿いや沼木地区の住民にとって中心市街地への交通手段として重要な役割を担う。 ・沿線の小学校(佐八小学校、中島小学校)への通学利用、小学校及び高等学校への通学や地域住民の通院利用。
(25、26)中川線	<ul style="list-style-type: none"> ・県道伊勢大宮線沿い(城田地区)の住民にとって中心市街地への交通手段として重要な役割を担う。 ・沿線に立地する高等学校への通学や病院への通院利用。
(24)伊勢玉城線	<ul style="list-style-type: none"> ・小俣地区、城田地区の住民にとって中心市街地や MEGA ドン・キホーテなど商業施設への交通手段を担う。 ・沿線住民の通勤や沿線に立地する病院への通院、中心市街地への買物、観光地へのレジャー等の利用。
(60、62)御座線	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢市内や志摩方面から中心市街地や市内の高等学校への通学及び伊勢赤十字病院に通院するための交通手段として重要な役割を担う。
(70)宿浦線	<ul style="list-style-type: none"> ・志摩方面から中心市街地や市内の高等学校への通学及び伊勢赤十字病院に通院するための交通手段として重要な役割を担う。
(80)五ヶ所線	<ul style="list-style-type: none"> ・県道伊勢南島線沿いや沼木地区の住民にとっては、中心市街地への交通手段として重要な役割を担う。 ・沿線の小学校(佐八小学校、中島小学校)への通学利用。 ・沿線に立地する小学校の児童や高等学校の生徒の通学等の利用。
おかげバス環状線	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の各幹線や支線等、かつ、地域の生活拠点である商業施設、医療施設及び公共施設等を結び、地域内の移動を担う路線、幹線を補完。 ・市や運行事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難。
おかげバス(2)辻久留・藤里線	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢市大倉町、辻久留町、前山町、旭町、藤里町、勢田町鷹泊・千寿台団地から鉄道駅(宇治山田駅、伊勢市駅)、公共施設(伊勢市役所、三重県伊勢庁舎等)、藤里町の個人医院への通院、商業施設等への移動手段のほか、令和 6 年 5 月に廃止となった無料送迎バスに代わる、鉄道駅から「伊勢やすらぎ公園」へのアクセス手段となる。

路線名	当該系統の必要性
	・市や運行事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難。
おかげバス (7)鹿海・朝熊線	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢市朝熊町、一字田町、鹿海町等からの四郷小学校への通学、伊勢総合病院への通院、近鉄五十鈴川駅、商業施設、公共施設(生涯学習センター)等への移動手段となる。 ・市や運行事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難。 ・利用者数が減少傾向であるため、路線の改善を予定。
おかげバス (8)二見線	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢市二見町地区からの伊勢総合病院への通院、近鉄五十鈴川駅、商業施設、公共施設(生涯学習センター)等への移動手段となる。 ・市や運行事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難。 ・利用者数が減少傾向であるため、路線の改善を予定。
おかげバス(10)東大淀・明野・小俣線	<ul style="list-style-type: none"> ・明和町大淀地区、伊勢市東大淀町、村松町、小俣町明野地区、野村町等からの鉄道駅(近鉄明野駅・JR 宮川駅)、公共施設(小俣郵便局・小俣図書館・小俣総合支所等)、伊勢赤十字病院、小俣町中心部、明和町大淀地区の個人医院への通院、商業施設等への移動手段となる。 ・市や運行事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難。
沼木バス 市内連絡用(1)/市内連絡・買物用(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・沼木地区の住民にとっては、沿線に立地する病院への通院や買物のほか、沿線に立地する小学校の児童や、中学校・高等学校の生徒の通学時に利用。 ・市や運行事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難。

下表の路線は、市や事業者が互いに情報共有等の連携をしつつ、それぞれの事業主体によって運行する路線です。

その他の路線(事業主体:伊勢市、三重交通等の運行事業者)

位置づけ	路線名		運行態様	運行区間		
				起点	主な経由地	終点
広域幹線	鉄道	JR 参宮線	定期運行	多気駅	伊勢市駅、二見浦駅	鳥羽駅
		近鉄山田線		伊勢中川駅	松阪駅、伊勢市駅	宇治山田駅
		近鉄鳥羽線		宇治山田駅	五十鈴川駅	鳥羽駅
都市間幹線	路線バス	(41)伊勢鳥羽線	定期運行	伊勢市駅前	宇治山田駅前、夫婦岩東口	鳥羽バスセンター
地区間幹線	路線バス	(01、02、07、08)伊勢市内線	路線定期運行	大倉うぐいす台/伊勢赤十字病院	伊勢市駅前、宇治山田駅前、古市/山商口/松尾観音	浦田町/内宮前
		(03)大湊線		伊勢市駅前	松尻(、ララパーク)	大湊
		(04)神社線		伊勢市駅前	松尻、ララパーク	一色町
支線	おかげバス	(1)御園線	路線定期運行	伊勢市駅前	伊勢赤十字病院、ララパーク、ハートプラザみその	伊勢赤十字病院
	沼木バス	市内連絡用(2)		床ノ木		横輪口
		市内連絡用(3)		床ノ木	横輪口	津村口
		南伊勢高校度会校舎前連絡		川口		南伊勢高校度会校舎前
観光交通軸	路線バス	(44)二見サンアリーナ線	路線定期運行	五十鈴川駅前	サンアリーナ、光の街	夫婦岩東口
		(51、55)外宮内宮線		内宮前	神宮徴古館前/庁舎前、外宮前	内宮前
		CAN ばす		宇治山田駅前	内宮前、夫婦岩東口・伊勢シーパラダイス前、鳥羽水族館・ミキモト真珠島	鳥羽シーサイドホテル
		参宮バス		近鉄五十鈴川駅	浦田町、金剛證寺	山上広苑

上記の表のほか、地区内または隣接地区同士の商業施設や公共施設等を連絡する予約制のデマンド交通として、伊勢市が事業主体で「おかげバスデマンド(小俣・栗野方面、御園・小木・田尻方面)」と「沼木バスデマンド」を、進修地区ではまちづくりの会が事業主体で「進修おでかけタクシー」を運行しています。

5 計画目標と実施事業

4つの基本方針にそって具体的な目標を定め、官民連携して事業を推進していきます。また、目標ごとに具体的な数値目標を設定し、達成状況を評価していきます。なお、本市の公共交通の現状を踏まえ、特に重点的に取り組むべき5つの目標を「重点目標」として設定しました。

5-1 基本方針 1 創る

基本方針 1

創る

～持続可能な公共交通を創って、人と環境に優しい伊勢を実現する～

目標① 路線網の維持・改善

重点目標

- (1) 路線の維持・改善
- (2) ダイヤ調整
- (3) 交通空白の解消
- (4) 周辺市町との連携強化
- (5) 運賃体系の見直し

目標② 周辺環境の改善

- (1) わかりやすい案内環境の整備
- (2) バス待ち環境の改善

目標③ 次世代公共交通の導入

重点目標

基本方針1の重点目標の1つ目は「路線網の維持・改善」です。地域の実情やニーズに応じた使いやすく利便性のある路線へと再編し、その維持に努めます。また、今後市内の小中学校および県立高校の統廃合や、「高等学校等修学支援金制度(高校無償化)」の導入等の社会背景の変化により、公共交通に対する地域ニーズが異なってくることが想定されます。必要なタイミングでニーズを把握し、その時のニーズに応じた利用しやすい公共交通を目指します。また、近年の人件費や物価の高騰を踏まえた運賃体系の見直しについても検討します。

2つ目は「次世代公共交通の導入」です。ドライバー不足解消のため自動運転の本格導入に向けた取組の推進や、大量輸送を可能とする連節バスの導入、環境負荷低減に繋がる小型電気バスの導入などに引き続き取り組みます。

5-1-1 目標①の達成に向けた実施事業

目標① 路線網の維持・改善

重点目標

- (1) 路線の維持・改善
- (2) ダイヤ調整
- (3) 交通空白の解消
- (4) 周辺市町との連携強化
- (5) 運賃体系の見直し

本目標の達成のためには、市と交通事業者が連携し、適切な役割分担のもとで、地域ニーズにあった路線再編やダイヤ調整を行っていく必要があります。予約制のデマンド交通については、電話以外での予約方法への対応や予約時間の改善等を検討します。特に、利用者が減少している宮川左岸のおかげバスデマンドや鹿海・朝熊線、有滝線、土路今一色線、二見線などの路線は運行ダイヤの見直し、地域ニーズの高い場所へのバス停の設置に取り組みます。なお、環状線はさらなる利便性向上のため、次の①～④の要件を満たす場合、バス停の新設を検討します。

- ① 路線の経路上でありダイヤの変更を必要としない
- ② 安全に乗降が行える場所である

③警察、交通事業者、道路管理者からの承認を得られる ④利用者の増加が見込まれる

また、2つの重点目標に加えて「交通空白の解消」を重点事業とし、特に積極的に取り組んでいきます。本市ではバス停や駅から300m圏外となる地域に加え、勾配や地形等の要因により、地元から要望があり、伊勢地域公共交通会議が交通空白地域と認める地域における地理的な交通空白と、夜間の移動手段が少ないという時間的な交通空白が存在します。また、将来のドライバー不足によって新たな交通空白が生じる可能性があります。これらの交通空白の解消に向けて、路線網の改善に加え、ドライバー確保に向けた取組推進、夜間のタクシー不足解消に向けたライドシェアの継続など市、交通事業者、地域が連携して対策を進めていきます。

なお、市内を走行するバス路線の一部は周辺市町へも接続していることから、利用促進に向けて周辺地町とより一層の連携強化を図ります。

実施事業	
(1)路線の維持・改善	
1)市と交通事業者が連携し、適正な役割分担のもとで、地域ニーズにあった路線再編を実施	
2)路線バスの運行維持・改善	
3)おかげバス・おかげバスデマンドの運行維持・改善	
4)おかげバス環状線の運行維持・改善	
(2)ダイヤ調整	
1)ICカード利用履歴等のモビリティ・データを活用したダイヤ調整	
2)おかげバス、路線バス、鉄道が連携した乗り継ぎ利便性を確保	
(3)交通空白の解消	
1)交通事業者が連携し交通空白地帯の解消に向けた取組を推進	
2)市、交通事業者、地域が連携した地域交通の導入・維持・改善	
(4)周辺市町との連携強化	
1)周辺市域と連携した、より効果的なバス路線の構築	
(5)運賃体系の見直し	
1)社会情勢に合わせた運賃体系の見直し	
2)使いやすい定期券制度・内容の構築	

5-1-2 目標①に関する事業の実施主体とスケジュール

(1) 路線の維持・改善

■実施主体:伊勢市、バス事業者、地域

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)地域ニーズにあった路線再編	調査・再編内容検討			本格運行	
2)路線バスの運行維持・改善	調査・再編内容検討			本格運行	
3)おかげバス・おかげバスデマンドの運行維持・改善	調査・再編内容検討			本格運行	
4)おかげバス環状線の運行維持・改善	継続的なモニタリングと運行内容改善				

(2) ダイヤ調整

■実施主体:伊勢市、交通事業者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)IC カード利用履歴等のモビリティ・データを活用したダイヤ調整		履歴調査	ダイヤ調整		
2)乗り継ぎ利便性の確保		対策の検討			

(3) 交通空白の解消

■実施主体:伊勢市、交通事業者、周辺市町、地域

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)交通事業者が連携した取組の推進	課題共有		内容検討	実施	
2)市、事業者、地域が連携した地域交通の導入・維持	課題共有		内容検討	実施	

(4) 周辺市町との連携強化

■実施主体:伊勢市、周辺市町、バス事業者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)周辺市町との連携強化	継続的な協議と連携策推進				

(5) 運賃体系の見直し

■実施主体:伊勢市、交通事業者、地域

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)運賃体系の見直し		検討・協議		導入	
2)使いやすい定期券制度・内容の構築	検討	実施			

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①観光路線をのぞく路線バスの利用者	113.8 万人	114 万人
②おかげバスの利用者(環状線をのぞく)	65,292 人	70,000 人
③おかげバス環状線の利用者	60,611 人	70,000 人
④おかげバスデマンドの利用者	2,660 人	3,000 人
⑤沼木バスの利用者	2,677 人	2,700 人
⑥沼木バスデマンドの利用者	594 人	650 人
⑦地域運営乗合タクシーの利用者数	198 人	200 人
⑧年間利用者数 72 名未満のコミュニティバス停留所の割合	23%	18%
⑨公的資金投入額	16,192 万円	現状維持
⑩収支率	9.0%	現状維持

5-1-3 目標②の達成に向けた実施事業

目標② 周辺環境の改善

- (1)わかりやすい案内環境の整備
- (2)バス待ち環境の改善

公共交通を利用しやすい環境を創出するため、時間の案内や、場所の案内などわかりやすい案内環境の整備を進めていく必要があります。特に、停留所や行き先表示については、デジタルだけではなくアナログによる案内の充実や、経由する施設や方面を掲示する等の分かりやすい案内の整備を進めていきます。

また、迷わず乗り継ぎが出来るような案内表示の整備や、季節を問わず快適にバスを待つことのできる環境の整備を進めていきます。

実施事業	
(1)わかりやすい案内環境の整備	
1)バスロケーションシステムを活用した案内サイネージの設置を推進(時間の案内)	
2)路線バスとコミュニティバスのバス停名統一、鉄道駅や主要バス停までの案内表示を実施(場所の案内)	
(2)バス待ち環境の改善	
1)主要バス停の乗り継ぎ案内表示、上屋・ベンチ等の整備推進	

5-1-4 目標②に関する事業の実施主体とスケジュール

(1) わかりやすい案内環境の整備

■実施主体:伊勢市、バス事業者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)バスロケーションシステムを活用した案内サイネージ設置		現況調査	設置方法検討・設置		
2)わかりやすいバス停環境への改善		内容検討	対策実施		

(2) バス待ち環境の改善

■実施主体:伊勢市、バス事業者、道路管理者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)主要なバス停の環境改善	対策実施				

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①公共交通利用満足度	32%	40%
②新たに設置した上屋、ベンチ等の個数	—	10 基

5-1-5 目標③の達成に向けた実施事業

目標③ 次世代公共交通の導入

重点目標

地球規模での温暖化が懸念される中、公共交通においては CO₂ 排出量の削減等に取り組んでいく必要があり、本市では電気バスやハイブリッドバスの導入を進めてきました。今後もこれらの取組をより一層推進するとともに、新たな交通システム導入に向けた研究を実施し、持続可能な公共交通を創っていきます。

また、ドライバー不足が懸念される中、大量輸送が可能な連節バスや自動運転バスの導入、ライドシェアの実施など、様々な運行形態への取組を推進していく必要があります。自動運転バス、ライドシェアについては R6 年度に実証事業を行い、利用者満足度も高かったことから引き続き国や交通事業者、地域の方々と連携して検証を継続していきます。

実施事業
(1)「小型電気バス」、「ハイブリッド連節バス神都ライナー」の導入促進による、CO ₂ の削減推進
(2)自動運転バスの本格導入に向けた実証実験を実施
(3)自転車・シェアモビリティと公共交通との連携やグリーンスローモビリティなど、新たな交通システム導入について研究推進

5-1-6 目標③に関する事業の実施主体とスケジュール

■実施主体:伊勢市、交通事業者、国

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)小型電気バス、ハイブリッド連節バス神都ライナーの導入促進	導入の継続				
2)自動運転バスの導入に向けた実証実験の実施と本格導入	実証・本格導入に向けた取組み				
3)新たな交通システム導入に向けた研究の実施	研究の実施				

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①電気バス及びハイブリッド連節バスの台数	4 台	維持
②自動運転バスの導入台数	0 台	1 台
③EV バス活用による CO ₂ 削減量	52トン	58トン
④環境市域における温室効果ガス排出量	818,000トン-Co ₂ (R2 年度)	641,000 トン-Co ₂

5-1-7 計画期間中の目標値目安

R12 年度の目標達成に向けて、計画期間中の各年度の数値の目安を整理しました。

	現況値	目標値				
		R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
基本方針1 創る ～持続可能な公共交通を創って、人と環境に優しい伊勢を実現する～						
目標① 路線網の維持・改善 【重点目標】						
観光路線をのぞく路線バスの利用者	1,138,000	1,140,000人	1,140,000人	1,140,000人	1,140,000人	1,140,000人
おかげバスの利用者（環状線をのぞく）	65,292人	66,000人	67,000人	68,000人	69,000人	70,000人
おかげバス環状線の利用者	60,611人	62,000人	64,000人	66,000人	68,000人	70,000人
おかげバスデマンドの利用者	2,660人	2,730人	2,800人	2,870人	2,940人	3,000人
沼木バスの利用者	2,677人	2,680人	2,680人	2,690人	2,690人	2,700人
沼木バスデマンドの利用者	594人	610人	620人	630人	640人	650人
地域運営乗合タクシーの利用者数	198人	190人	190人	195人	195人	200人
年間利用者数72名未満のコミュニティバス停留所の割合	23%	22%	21%	20%	19%	18%
（減少率）		1%減	2%減	3%減	4%減	5%減
公的資金投入額	16,192万円	物価変動を踏まえて現状維持	物価変動を踏まえて現状維持	物価変動を踏まえて現状維持	物価変動を踏まえて現状維持	物価変動を踏まえて現状維持
収支率	9.0%	物価変動を踏まえて現状維持	物価変動を踏まえて現状維持	物価変動を踏まえて現状維持	物価変動を踏まえて現状維持	物価変動を踏まえて現状維持
目標② 周辺環境の改善						
公共交通利用満足度	32%	34%	35%	37%	38%	40%
新たに設置した上屋、ベンチ等の個数	0基	2基	4基	6基	8基	10基
目標③ 次世代公共交通の導入 【重点目標】						
電気バス及びハイブリッド連節バスの台数	4台	4台	4台	4台	4台	現状維持（4台）
自動運転バスの導入台数	0台	0台	1台	1台	1台	1台
EVバス活用によるCO ₂ 削減量	52 t	52 t	56 t	56 t	58 t	58 t
環境市域における温室効果ガス排出量	818,000t-Co2	711,800t-Co2	694,100t-Co2	676,400t-Co2	658,700t-Co2	641,000t-Co2

5-2 基本方針 2 活かす

基本方針 2

活かす

～公共交通を利用して気がねなくおでかけできる、楽しい伊勢を実現する～

目標① 利用するきっかけの創出

重点目標

- (1)公共交通への興味喚起
- (2)公共交通を利用したお出かけを促進
- (3)利用促進に向けた料金負担軽減策の推進

目標② わかりやすい情報発信による利用促進

- (1)積極的な広報の実施
- (2)わかりやすい乗車案内

基本方針 2 の重点目標は「利用するきっかけの創出」です。多くの方に公共交通を利用していただけるよう「乗ってみよう」と思っただけのような啓発・広報を展開するとともに、料金負担軽減策にも引き続き取り組みます。

5-2-1 目標①の達成に向けた実施事業

目標① 利用するきっかけの創出

重点目標

- (1)公共交通への興味喚起
- (2)公共交通利用によるお出かけを促進
- (3)利用促進に向けた料金負担軽減策の推進

重点目標である「利用するきっかけの創出」を実現するための施策の中で、「公共交通への興味喚起」を重点事業とし、特に積極的に取り組んでいきます。これまでも「バスの乗り方教室」や「バスポスターコンクールの開催」「伊勢まつりへの出展」、ホームページなどコミュニティバスの利用促進に向けた広報活動を行ってきましたが、今後もこれらの活動を継続するとともに、料金負担軽減策を継続し、これまで公共交通を利用する機会のなかった方にも「利用してみよう」と思っただけのような取組を推進します。

また、公共交通を利用しない方にその理由を伺うと「運行本数が少ない」「行きたい場所に行けない」という声が聞かれます。「利用してみよう」と思っただけよう、利用者ニーズ調査を行い、ニーズに合った路線網の再編を実施します。ニーズ調査は、特に重点的に利用促進を図る対象(子育て世代、高齢者、学生)のニーズや、現在路線バスを利用していない方々のニーズ(潜在ニーズ)を把握するために実施し、公共交通を利用したお出かけができる交通網の構築に取り組みます。

また、料金負担軽減策の推進については、運転免許返納者が公共交通を利用することで、外出機会の増加や健康増進につながる取組について検討します。例えば、三重交通グループのバス路線では運転免許証を自主返納した場合、路線バス運賃が半額になるなどの割引措置があります。これらの割引措置について積極的に周知することで、運転免許証の自主返納を推奨します。あわせて、自主返納を前向きに考えられるよう、返納前からバスに乗る習慣をつけてもらうためのきっかけづくりを進めます。

このほかにも、学生に使いやすい定期券の内容についても検討を行います。

実施事業	
(1)公共交通への興味喚起	
1)バスポスターコンクール、乗り方教室、伊勢まつりでの利用促進など「楽しさ」を届ける啓発活動の実施	
2)みえ応援ポケモン「ミジュマル」の電気バスを活用した啓発活動の実施	
3)さわやかウォーキングなどのイベント、啓発活動を通じた鉄道利用の促進	
(2)公共交通を利用したお出かけを促進	
1)学生・子育て世代・高齢者の公共交通に対する利用ニーズを調査し、ニーズに合った利用促進策を実施	
2)地域イベントや施設との連携による公共交通の利用促進	
(3)利用促進に向けた料金負担軽減策の推進	
1)セーフティーパスやおでかけ乗車券など多様な交通手段で利用出来る料金負担軽減策を推進	

5-2-2 目標①に関する事業の実施主体とスケジュール

(1) 公共交通への興味喚起

■実施主体:伊勢市、交通事業者、警察、地域

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)「楽しさ」を届ける啓発活動の実施	内容のブラッシュアップ・継続実施				
2)みえ応援ポケモン電気バスを活用した啓発活動の実施	内容のブラッシュアップ・継続実施				
3)イベント、啓発活動を通じた鉄道利用の促進	継続実施				

(2) 公共交通を利用したお出かけを促進

■実施主体:伊勢市、交通事業者、地域、商業施設・福祉施設

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)子育て世代、高齢者、学生のニーズ調査と利用促進策実施		調査	利用促進の実施		
2)イベント、施設との連携による公共交通の利用促進		内容の検討	利用促進の実施		

(3) 利用促進に向けた料金負担軽減策の推進

■実施主体:伊勢市、交通事業者、地域

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)料金負担軽減策の推進	事業の継続				

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①ポスターコンクール応募者	314 人	児童数の 7%
②利用啓発イベント参加者数	986 人	1,100 人
③おでかけ乗車券の利用率	32.6%	40%
④子育て世代、高齢者、高校生・大学生の公共交通満足度 (10代～30代・70代以上の満足度)	36%(R5)	50%

5-2-3 目標②の達成に向けた実施事業

目標② わかりやすい情報発信による利用促進

- (1)積極的な広報の実施
- (2)わかりやすい乗車案内

公共交通を積極的に利用していただくためには、わかりやすい乗車案内が重要です。多様な手段を用いた広報を積極的に実施し、利用しやすい公共交通環境を整えていきます。

実施事業	
(1)積極的な広報の実施	
1)地域のイベントと連携した公共交通利用促進の広報を実施	
2)ホームページや SNS、チラシ配布など多様な媒体を活用した広報を実施	
3)周辺市町と情報の共有、連携した周知活動の実施	
(2)わかりやすい乗車案内	
1)GTFS リアルタイム、LINE アカウントによるチャットボットの公共交通案内、総合時刻表の配布など多様な手段を用いた乗車案内を実施	
2)鉄道・バスによるアクセス方法や料金等の周知を実施	
3)「三重県内の公共交通ネットワーク見える化」プロジェクトとの連携	

5-2-4 目標②に関する事業の実施主体とスケジュール

(1) 積極的な広報の実施

■実施主体:伊勢市、交通事業者、周辺市町、地域

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)イベントと連携した利用促進広報の実施	内容の検討	実施			
2)多様な媒体を活用した広報の実施	実施				
3)周辺市町との情報共有、周知活動実施	課題共有、周知活動実施				

(2) わかりやすい乗車案内

■実施主体:伊勢市、交通事業者、三重県

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)多様な手段を用いた乗車案内の実施	定期的な広報の実施				
2)アクセス方法、料金等の周知	※公開型 GIS 整備		周知の実施		
3)「三重県内の公共交通ネットワーク見える化」プロジェクトとの連携	県との連携による情報提供の継続実施				

※市が R8 に導入する公開型 GIS を用いる

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①伊勢市交通政策課ホームページの PV 数	64,719 件	71,000 件
②LINE チャットボットの起動回数	5,163 回	6,000 回
③SNS フォロワー数	0 人	1,000 人

5-2-5 計画期間中の目標値目安

R12 年度の目標達成に向けて、計画期間中の各年度の数値の目安を整理しました。

	現況値	目標値				
		R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
基本方針2 活かす ～公共交通を利用して気兼ねなくおでかけできる、楽しい伊勢を実現する～						
目標① 利用するきっかけの創出【重点目標】						
ポスターコンクール応募者 (児童数に占める応募者の割合)	314人 5.5%	(児童数による)				
		5.8%	6.1%	6.4%	6.7%	7%
利用啓発イベント参加者数	986人	1,010人	1,030人	1,050人	1,070人	1,100人
おでかけ乗車券の利用率	32.6%	34%	35%	36%	37%	40%
子育て世代、高齢者、高校生・大学生の公共交通満足度（10代～30代・70代以上の満足度）	36%	39%	42%	44%	47%	50%
目標② わかりやすい情報発信による利用促進						
伊勢市交通政策課ホームページのPV数	64,719件	66,000件	67,000件	69,000件	70,000件	71,000件
(増加率)		2%増	4%増	6%増	8%増	10%増
LINEチャットボットの起動回数	5,163回	5,300回	5,400回	5,500回	5,600回	6,000回
(増加率)		2%増	4%増	6%増	8%増	10%増
SNSフォロワー数	0人	200人	400人	600人	800人	1,000人

5-3 基本方針 3 楽しむ

基本方針 3

楽しむ

～公共交通利用によって観光も生活も充実する伊勢を実現する～

目標① 観光客の公共交通利用を増やす

重点目標

目標② 観光満足度を上げ、何度でも訪れたいと思える公共交通観光の提案

目標③ 外国人観光客の公共交通の使いやすさ向上

目標④ 住民の快適な外出環境の整備による回遊性の高い地域づくり

基本方針 3 の重点目標は「観光客の公共交通利用を増やす」です。本市では観光施設の約 70%が鉄道駅やバス停から 300m圏内に位置していますが、内宮参拝者の公共交通利用率が 30%未満に留まり、観光客の移動・交通に関する満足度も低い状況です。R15 年の第 63 回式年遷宮に向けて R7 年から様々な行事が開始されるなか、多くの観光客が本市を訪れることが想定されることから、初めて本市を訪れる人でも公共交通を利用する観光を楽しめるような環境づくりを行います。

5-3-1 目標①の達成に向けた実施事業

目標① 観光客の公共交通利用を増やす

重点目標

重点目標である「観光客の公共交通利用を増やす」を実現するための施策の中で、「遷宮に向けた交通環境の整備」と「二次交通の充実」を重点事業とし、特に積極的に取り組んでいきます。

本市は、伊勢神宮御鎮座のまちとして栄えてきた歴史を有し、多くの観光客が訪れています。観光客の方々にも公共交通を利用していただき、市内に点在する観光地を周遊し、より本市での観光を楽しんでいただくことは、公共交通の利用促進に加えて、リピーターの確保など観光振興にも寄与することとなります。

そのため、シェアサイクル等も含めた多様な交通手段の組み合わせによって、駅から観光地へのアクセス性をより向上させるとともに、公共交通の積極的な利用促進を呼びかけていきます。また、市内の店舗や宿泊施設と連携した新たなサービスの展開について検討を進めます。

また、R15 年に予定される第 63 回式年遷宮に向けて、本計画の計画期間中には様々な行事が行われ、多くの人が本市を訪れることが想定されることから、伊勢志摩観光型 MaaS の更なる充実による周遊観光の促進、宿泊施設と店舗を結ぶアクティビティの開発等、公共交通を利用する楽しい伊勢観光を実現します。また、オーバーツーリズム対策として、京都市や鎌倉市、高山市などの他市の事例を研究し、その対応策を検討します。併せて、自動運転技術やライドシェアの実証実験を継続し、地理的・時間的な交通空白の解消を図ることで、移動が楽しくなる交通環境の整備を進めていきます。

実施事業
(1) 遷宮に向けた交通環境の整備
(2) シェアサイクル・レンタサイクルなど多様な交通手段の組み合わせによる二次交通の充実
(3) 伊勢志摩観光型 MaaS の取り組み継続による周遊観光の促進
(4) 店舗、宿泊施設と公共交通が連携した新たなサービスの展開
(5) ゴールデンウィーク・初参り時に、公共交通の積極的な利用を促進

5-3-2 目標①に関する事業の実施主体とスケジュール

■実施主体:伊勢市、交通事業者、観光施設・店舗・宿泊施設、伊勢地域観光交通対策協議会

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)遷宮に向けた交通環境の整備			関係者との内容検討		整備
2)二次交通の充実	内容検討・対策実施				
3)MaaS の取組継続	継続実施				
4)店舗、宿泊施設と連携した新たなサービス展開	対策検討		連携実施		
5)公共交通の積極的な利用促進	継続実施				

目標指標	現況値 (R6 年度)		目標値 (R12 年度)
①伊勢市観光の満足度(移動・交通)	78.5%		84%
②近鉄、JR 主要駅の乗客数	3,963,644 人		4,900,000 人
③外宮内宮線・CAN バス・二見サンアリーナ線の利用者数	1,783,300 人		2,318,300 人
④サイクルトレインの利用者数、レンタサイクルの利用台数	サイクルトレイン	157 人/月 (R5)	180 人/月
	レンタサイクル	4,488 台/年 (R4)	6,300 台/年
⑤内宮参拝者の公共交通利用率	26%		35%
⑥「公共交通でゆく 神宮 125 社めぐり帖」ホームページアクセス数	2,000PV		30,500PV

5-3-3 目標②の達成に向けた実施事業

目標② 観光満足度を上げ、何度でも訪れたいと思える公共交通観光の提案

「令和 6(2024)年伊勢市観光客実態調査報告書」によると、R6 年に市内を訪れた観光客の総合満足度は 87.4 点ですが、移動・交通に関する満足度は 78.5 点と 8 つの調査項目の中で最も低い点数となっています。

本市を訪れた方々の移動・交通に関する満足度を向上させ、公共交通を利用する「地域を味わう観光」への転換を促進すべく、モデルルートの提案など情報提供を行います。

実施事業
(1)マイカーによる「ショートカット観光」から、公共交通を利用する「地域を味わう観光」への転換を促進
(2)観光施設へのアクセスを円滑化するため、モデルルートの提案など SNS 等による情報提供を実施

5-3-4 目標②に関する事業の実施主体とスケジュール

■実施主体:伊勢市、交通事業者、観光施設

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)公共交通を利用する「地域を味わう観光」への転換促進	内容検討・実施				
2)モデルルート提案など SNS による情報提供実施	実施				

5-3-5 目標③の達成に向けた実施事業

目標③ 外国人観光客の公共交通の使いやすさ向上

日本を訪れる外国人旅行者数は R6 年に 3,687 万人と過去最高を記録しました。本市を訪れる外国人旅行者も R6 年に約 11 万人(神宮参拝者数)となり、R1 年以降で最高を記録しています。

そのため、本市を訪れる外国人旅行者が快適に公共交通を利用できるよう、多言語表示や多言語案内コンテンツを作成するなど、外国人観光客の公共交通の使いやすさ向上を図っていきます。

実施事業
(1)多言語表示、多言語案内コンテンツの作成等、外国人観光客の公共交通の使いやすさの向上

5-3-6 目標③に関する事業の実施主体とスケジュール

■実施主体:伊勢市、交通事業者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)外国人観光客の公共交通の使いやすさ向上	調査・事業実施				

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①新たに整備する外国人向けの公共交通案内表示、動画、ウェブサイト等のコンテンツ数	0	10

5-3-7 目標④の達成に向けた実施事業

目標④ 住民の快適な外出環境の整備による回遊性の高い地域づくり

通勤や通学、買い物、通院など生活に必要な移動だけでなく、飲食店や近郊の商業施設への移動など、レジャーや娯楽を目的とした移動にも公共交通を利用してもらえるよう、二次交通を含めた交通網を整備するとともに、夜間の移動手段の確保にも取り組みます。

実施事業
1)シェアサイクル・レンタサイクルなど多様な交通手段の組み合わせによる二次交通の充実(再掲)
2)ライドシェアによる夜間の移動手段の確保

5-3-8 目標④に関する事業の実施主体とスケジュール

■実施主体:伊勢市、交通事業者、商業施設、福祉施設、地域

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1) 二次交通の充実(再掲)	内容検討・対策実施				
2) ライドシェアの実施	実証	本格実施			

目標指標	現況値 (R6 年度)		目標値 (R12 年度)
①サイクルトレインの利用者数、レンタサイクルの利用台数(再掲)	サイクルトレイン	157人/月 (R5)	180人/月
	レンタサイクル	4,488台/年 (R4)	6,300台/年
②観光路線をのぞく路線バスの利用者(再掲)	113.8万人		114万人
③おかげバスの利用者(環状線をのぞく)(再掲)	65,292人		70,000人
④おかげバス環状線の利用者(再掲)	60,611人		70,000人
⑤おかげバスデマンドの利用者(再掲)	2,660人		3,000人
⑥沼木バスの利用者(再掲)	2,677人		2,700人

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
⑦沼木バステマンドの利用者(再掲)	594 人	650 人
⑧公共交通利用満足度(再掲)	32%	40%

5-3-9 計画期間中の目標値目安

R12 年度の目標達成に向けて、計画期間中の各年度の数値の目安を整理しました。

	現況値	目標値				
		R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
基本方針3 楽しむ ～公共交通利用によって観光も生活も充実する伊勢を実現する～						
目標① 観光客の公共交通利用を増やす【重点目標】						
目標② 観光満足度を上げ、何度でも訪れたいと思える公共交通観光の提案						
伊勢市観光の満足度	78.5%	80%	81%	82%	83%	84%
近鉄、JR主要駅の乗客数	3,963,644人	4,151,000人	4,338,000人	4,525,000人	4,712,000人	4,900,000人
外宮内宮線・CAN ばす・二見サンアリーナ線の利用者数	1,783,300人	1,961,600人	2,050,800人	2,140,000人	2,229,100人	2,318,300人
(増加率)		10%増	15%増	20%増	25%増	30%増
サイクルトレインの利用者数、レンタサイクルの利用台数						
サイクルトレイン	157人/月	160人/月	170人/月	170人/月	180人/月	180人/月
(増加率)		3%増	6%増	9%増	12%増	15%増
レンタサイクル	4,488台/年	5,500台/年	5,700台/年	5,900台/年	6,100台/年	6,300台/年
(R8年度比増加率)		－	3%増	6%増	9%増	12%増
内宮参拝者の公共交通利用率	26%	28%	30%	31%	33%	35%
「公共交通でゆく 神宮125社めぐり帖」ホームページアクセス数	2,000PV	25,200PV	26,500PV	27,800PV	29,200PV	30,500PV
目標③ 外国人観光客の公共交通使いやすさの向上						
新たに整備する外国人向けの公共交通案内表示、動画、ウェブサイト等のコンテンツ数	0	2	4	6	8	10
目標④ 住民の快適な外出環境の整備による回遊性の高い地域づくり						
サイクルトレインの利用者数、レンタサイクルの利用台数（再掲）						
サイクルトレイン	157人/月	160人/月	170人/月	170人/月	180人/月	180人/月
(増加率)		3%増	6%増	9%増	12%増	15%増
レンタサイクル	4,488台/年	5,500台/年	5,700台/年	5,900台/年	6,100台/年	6,300台/年
(R8年度比増加率)		－	3%増	6%増	9%増	12%増
観光路線をのぞく路線バスの利用者（再掲）	1,138,000	1,140,000人	1,140,000人	1,140,000人	1,140,000人	1,140,000人
おかげバスの利用者（環状線をのぞく）（再掲）	65,292人	66,000人	67,000人	68,000人	69,000人	70,000人
おかげバス環状線の利用者（再掲）	60,611人	62,000人	64,000人	66,000人	68,000人	70,000人
おかげバステマンドの利用者（再掲）	2,660人	2,730人	2,800人	2,870人	2,940人	3,000人
沼木バスの利用者（再掲）	2,677人	2,680人	2,680人	2,690人	2,690人	2,700人
沼木バステマンドの利用者（再掲）	594人	610人	620人	630人	640人	650人
公共交通利用満足度(再掲)	32%	34%	35%	37%	38%	40%

5-4 基本方針 4 育てる

基本方針 4

育てる
～みんなで考え、地域で公共交通を支える伊勢を実現する～

目標① 担い手確保

重点目標

目標② 収入源の確保

目標③ 公共交通を考える

(1)公共交通会議の活用

(2)地域自らが公共交通を考える機会の創出

基本方針 4 の重点目標は「担い手確保」です。2024 年問題に伴う乗務員不足への対応や、自家用有償旅客運送(沼木バス)の運行管理や車両管理ノウハウの次世代への引き継ぎなど、公共交通の担い手の確保に努めます。

5-4-1 目標①の達成に向けた実施事業

目標① 担い手確保

重点目標

重点目標である「担い手確保」を実現するための施策の中で、「ドライバー確保に向けた取組推進」を重点事業とし、特に積極的に取り組んでいきます。

本市ではドライバーの高齢化が課題となっており、持続可能な公共交通を実現するため、ドライバー確保に向けた取組を推進していく必要があります。また、車両管理ノウハウなどを次世代に引き継いでいくことも重要です。バスやタクシーのドライバー不足を解消するため、市と交通事業者が一体となって取組を推進していきます。

実施事業
(1)バス・タクシーのドライバー確保に向けた取組を推進
(2)運行管理や点検等を含めた車両管理ノウハウの次世代への引き継ぎを実施

5-4-2 目標①に関する事業の実施主体とスケジュール

■実施主体:伊勢市、交通事業者、地域

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)ドライバー確保に向けた取組推進	関係者との協議		取組の実施		
2)車両管理ノウハウの次世代への引き継ぎ	取組の実施				

バスやタクシーのドライバー不足を解消するため、市と交通事業者が一体となって取組を推進していきます。

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①乗合バスの運転手不足による減便を 0 にする	0	0

5-4-3 目標②の達成に向けた実施事業

目標② 収入源の確保

持続可能な公共交通を実現するため、利用促進を図り運賃収入を安定させるとともに、バス停のネーミングライツや車内放送による広告収入など、多様な収入源を確保していく必要があります。

実施事業
(1)バス停のネーミングライツや車内放送など、公共交通を企業や店舗のPR など活性化のツールとして活用

5-4-4 目標②に関する事業の実施主体とスケジュール

■実施主体:伊勢市、交通事業者、企業、商業施設

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)公共交通を企業等のPR ツールとして活用	継続実施				

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
広告協賛企業数	5社	7 社

5-4-5 目標③の達成に向けた実施事業

目標③ 公共交通を考える

持続可能な公共交通の実現には市や交通事業者が地域の方々と一体となって、要望や課題を共有し、その解決に向けて様々な取組を進めて行くことが重要です。そのため、公共交通会議を定期的開催することはもとより、新たな課題が発生した場合は、その課題の関係者にも会議に出席していただき課題解決に取り組むなど臨機に開催し、「地域とともにある公共交通会議」を目指します。

また、地域との対話の場を設け、課題が深刻化する前に対応を検討できる関係性を構築し、みんなで公共交通を考える伊勢市を目指します。進修地区では、地域自らが定期的に公共交通に対するニーズをモニタリングし、改善を図る体制・仕組みを構築しています。この取り組みを広く周知し、より地域ニーズに合った公共交通の構築を目指します。

実施事業
(1)公共交通会議の活用
1)定期開催に加えて、地域課題に合わせた臨機な開催により、新たな課題解決の場として公共交通会議を活用
2)高齢化の影響が懸念される地区の公共交通のあり方、将来の交通体系を検討する新たなスキームについて検討
3)公共交通会議での検討状況をホームページなどを通じて定期的に発信
(2)地域自らが公共交通を考える機会の創出
1)地域との意見交換の場を積極的に持ち、地域課題の把握と地域自らが中心となって地域交通の必要性や運行改善などを考える機会を創出
2)沼木バス(沼木バスデマンドを含む)について、地域主体の自主運行バスのあり方を協議し、R9 年度を目標に再編を実施

5-4-6 目標③に関する事業の実施主体とスケジュール

(1) 公共交通会議の活用

■実施主体:伊勢市、交通事業者、地域、国、三重県

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)地域とともにある公共交通会議の開催	会議の継続開催				
2)将来の高齢化を見越した公共交通のあり方検討	路線の再編と合わせて検討				
3)公共交通会議での検討状況の定期的な発信	定期的な発信				

(2) 地域自らが公共交通を考える機会の創出

■実施主体:伊勢市、交通事業者、地域

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)地域との意見交換の実施	継続的な実施				
2)沼木バスに関する地域との対話とあり方の検討	あり方検討	継続的な対話の実施			

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①伊勢地域公共交通会議の開催 【望ましい方向:4回/年以上の定期開催+地域課題に応じた臨機な開催】	5回/年	—
②地域との懇談会等の回数	2回/年	3回以上/年

R12 年度の目標達成に向けて、計画期間中の各年度の数値の目安を整理しました。

	現況値	目標値				
		R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
基本方針4 育てる ～みんなで考え、地域で公共交通を支える伊勢を実現する～						
目標① 担い手確保【重点目標】						
乗合バスの運転手不足による減便を0にする	0	0	0	0	0	0
目標② 収入源の確保						
広告協賛企業数	5社	5社	5社	6社	6社	7社
目標③ 公共交通を考える						
伊勢地域公共交通会議の開催【望ましい方向：4回/年以上の定期開催＋地域課題に応じた臨機な開催】	5回/年	－	－	－	－	－
地域との懇談会等の回数	2回/年	2回/年	2回/年	3回/年	3回/年	3回以上/年

6 目標達成状況の評価

計画期間中は、毎年度、本計画に定めた事業の実施状況に関する調査、分析及び指標に対する評価を行います。具体的には、本計画や事業の立案(Plan)に基づき、本計画に記載する実施主体による実行(Do)、その結果及び効果、課題の確認、分析、共有等(Check)を行い、必要に応じて計画や事業の改善、見直し(Action)を行うなど、年度ごとのPDCAサイクルによる着実な推進を図ります。

また、計画期間の最終年度となる R12 年度には、計画期間中の事業実施状況と目標指標達成状況の評価とともに、社会状況も踏まえた次期計画策定に向けた各種調査等を実施します。

毎年の事業実施状況や指標に対する評価は、伊勢地域公共交通会議において関係者間で共有し、一般に公開するとともに、新たな検討課題や事業の改善、見直し(Action)が必要となった場合は、幹事会や専門部会の設置も含めて対応します。

年度単位のスケジュール

区分	R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度
事業計画(P)					
事業実施(D) ※					
実施状況の 確認・共有(C)	 必要に応じて報告 報告				
新たな課題・ 事業内容の改善 (A)					

※必要に応じて幹事会や専門部会を設置し、事業実施体制の強化を図る

年度のスケジュール

区分	N-1年度						N年度												N+1年度								
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月			
地域公共交通会議の開催	●					●			●				●					●			●						
会議の実施時期は目安であり、議案・報告事項の進捗によって柔軟に開催する。 【議案・報告事項】 C・A・P ・決算、予算の協議 ・事業実施状況の報告 ・各年度評価の報告 ・地域の公共交通課題の共有 ・新規事業計画の報告 等																											
必要に応じて 幹事会・専門部会						必要に応じて幹事会・専門部会														必要に応じて 幹事会・専門部会							
地域公共交通確保維持事業		□ 補助金交付申請		□ 一次評価	□ 二次評価				□ P 翌年度の計画認定申請 (会議での承認)				□ 翌年度の計画認定		□ 補助金交付申請		□ 一次評価	□ 二次評価				□ P 翌年度の計画認定申請 (会議での承認)			□ 翌年度の計画認定		
事業実施	★伊勢まつり ★バスのポスターコンクール					★ダイヤ見直し ★伊勢まつり ★バスのポスターコンクール ★高柳の夜店 ★ ★ ★ バスの乗り方教室														★ダイヤ見直し ★高柳の夜店 ★ ★ ★ バスの乗り方教室							
各種事業の実施 D						各種事業の実施 D														各種事業の実施 D							
評価・検証				◎ C A 対話型評価 (関係者の双方型のコミュニケーション) 目標指標に関連するデータ	◎ C 目標指標の評価 目標指標に関連するデータ												◎ C A 対話型評価 (関係者の双方型のコミュニケーション) 目標指標に関連するデータ	◎ C 目標指標の評価 目標指標に関連するデータ									

【P：Plan、D：Do、C：Check、A：Action】

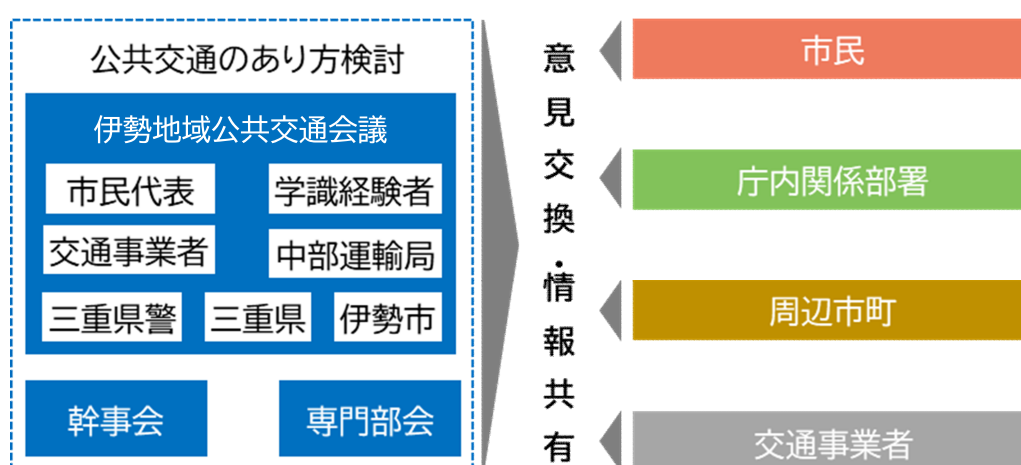
7 計画推進に向けた取組

7-1 機動的・横断的な実行体制

本計画は、伊勢地域公共交通会議により管理を行うものとし、円滑な協議を行うために幹事会を設置するとともに、地域の実情に即した課題や専門的な個別課題について協議を行う必要が生じた場合は専門部会を設置して議論を深めます。

また、計画が目指す将来像や基本理念を実現するために、市民のみなさんや庁内の関係部署、周辺市町と協働・連携して事業を進めます。特に、地域のニーズに即した公共交通ネットワークを形成するために市民の方々との対話やアンケートによるニーズの掘り起こしを進めるとともに、持続可能な公共交通の確立に向けて交通事業者との定期的な意見交換や情報共有を行います。

伊勢地域公共交通会議と関係者の連携イメージ



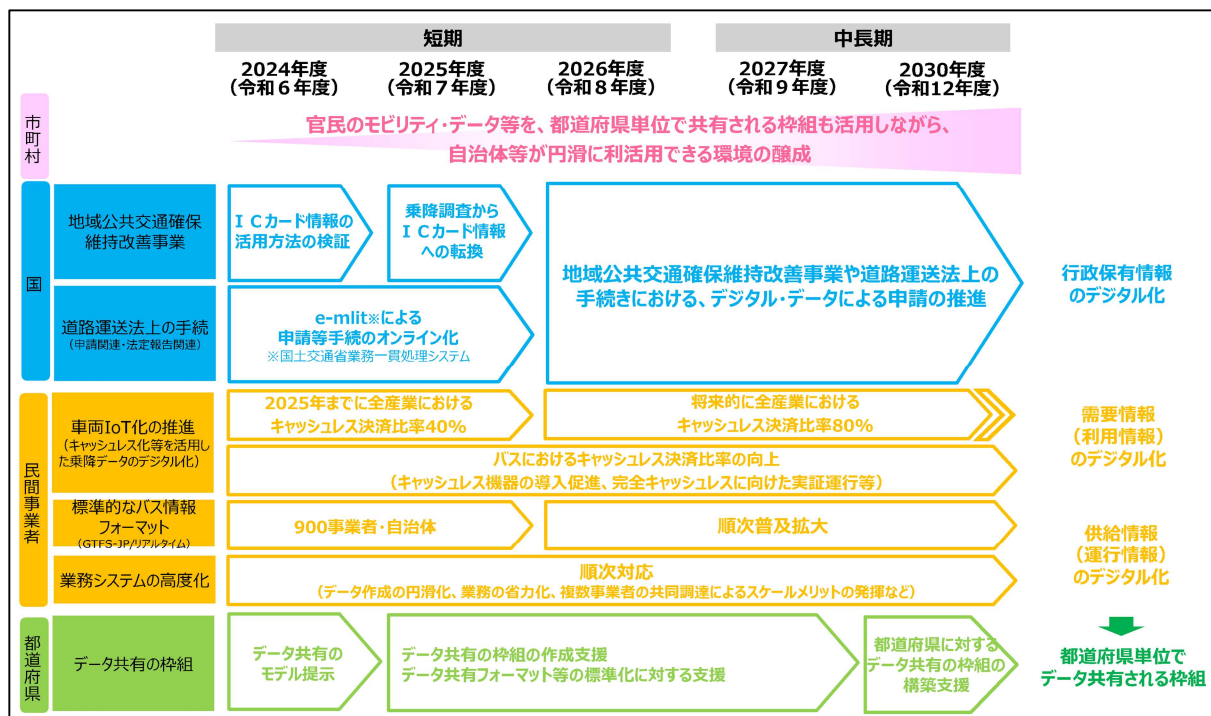
庁内関係部署の連携イメージ



7-2 モビリティ・データの活用

国では、「国・都道府県・民間事業者によるデジタル化を一体的に推進することにより、R12（2030）年をめどに交通分野において、情報技術の特徴（自動化・省力化）を最大限に活用した有機的なデジタル連携体制の構築を目指すべき」としています。

本市においても、整備された IC カード情報の活用など、進捗に応じて積極的にデータを活用していきます。



資料:「地域公共交通計画」の実質化に向けた検討会 中間とりまとめ(R6.4)